



NTT DOCOMO Ventures, Inc.

Category: 秘密度C
NTT DOCOMO Ventures
Information Manager: Yuuki Teranishi
Date of Presentaion: 10/20/2025

NTTドコモ・ベンチャーズ シリコンバレー支店 2025.10

シリコンバレーから見たAIの最新動向

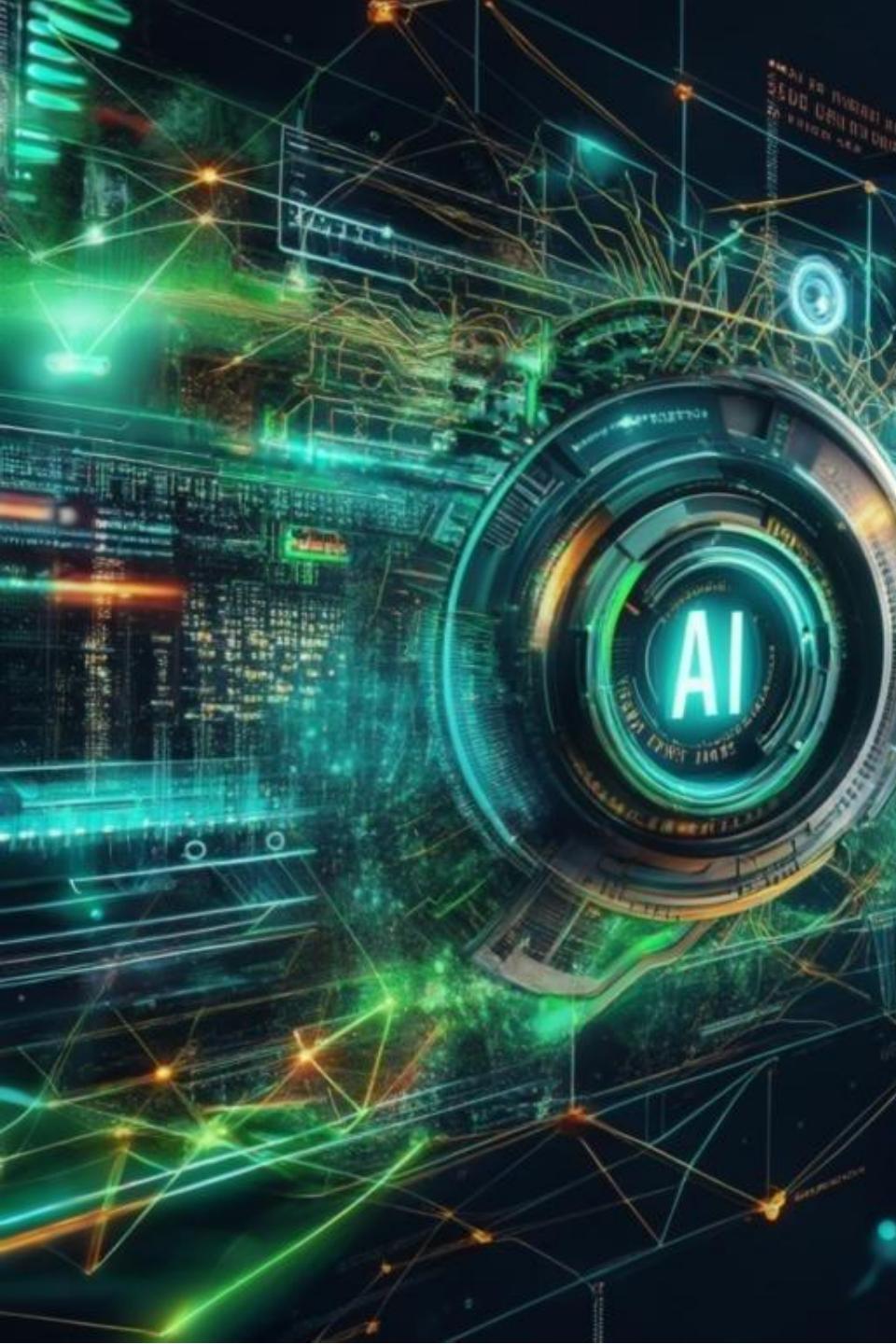
-Agenda

- ・米国におけるAI投資動向
- ・AIエージェント活用の現状と進化
- ・音声AIがもたらす新たな変革
- ・動画・画像生成AIの最前線
- ・米国におけるコンシューマAIの利用実態
- ・最新のトレンド情報
- ・AIマーケットマップについて
- ・注目スタートアップ紹介



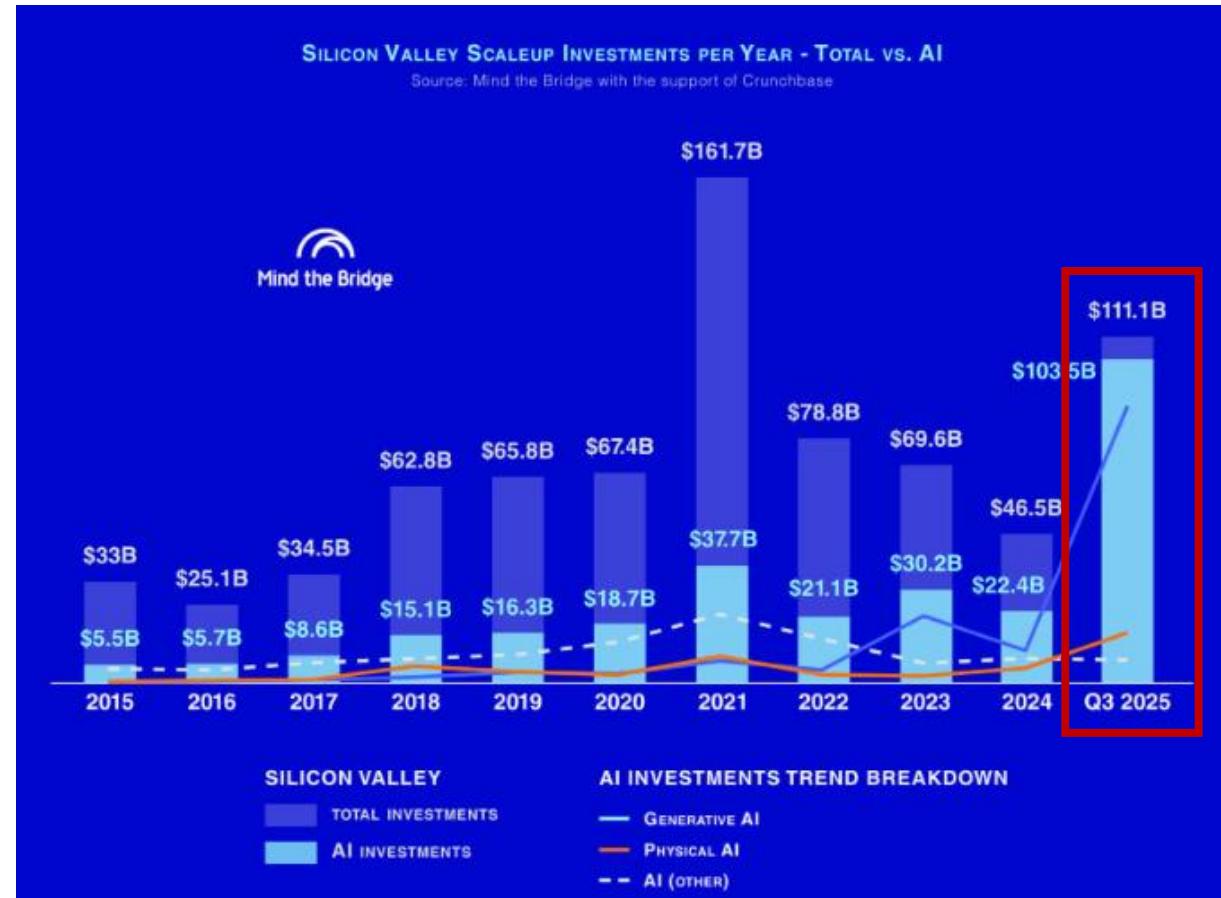
-Agenda

- ・米国におけるAI投資動向
- ・AIエージェント活用の現状と進化
- ・音声AIがもたらす新たな変革
- ・動画・画像生成AIの最前線
- ・米国におけるコンシューマAIの利用実態
- ・最新のトレンド情報
- ・AIマーケットマップについて
- ・注目スタートアップ紹介



シリコンバレーにおけるAI投資の最新動向

- 2025年、シリコンバレーでは投資の約9割がAI関連に集中
- AIはインターネットや電気の登場以来の産業革命と言われ、AIがテクノロジー投資の“主役”となっている



「Physical AI. Shaping the Market of the New Possible」

Copyright © 2025 NTT DOCOMO Ventures, Inc. All Rights Reserved.

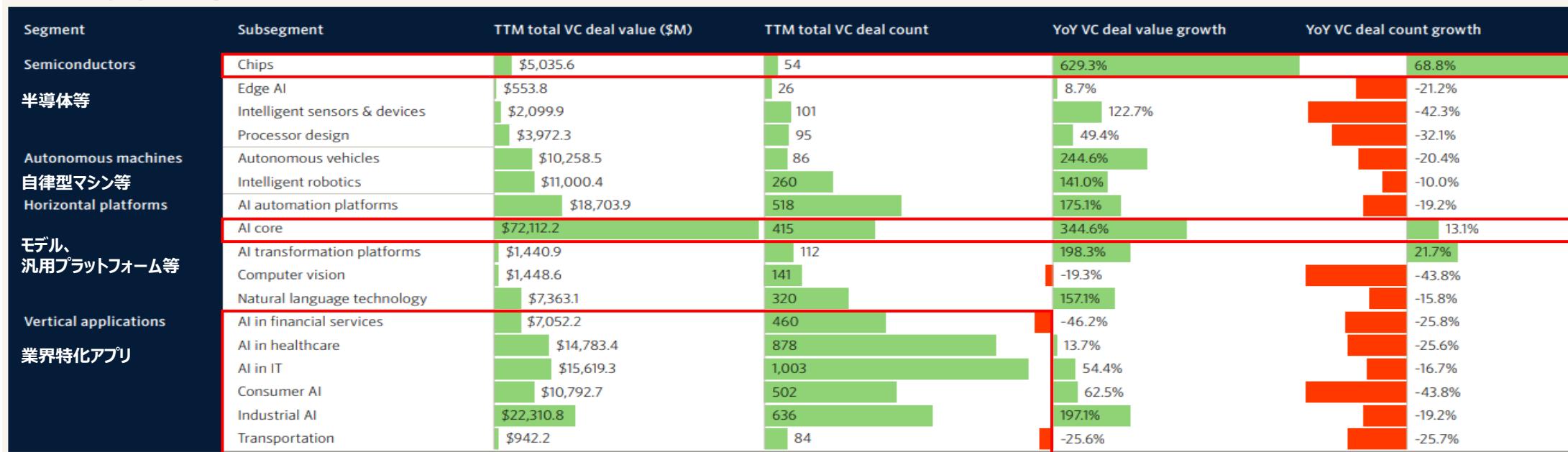
世界のAI投資における領域別分析

- 2025年上期はAIコア(モデル)への投資額が最大となり、半導体への投資が急増した。一方で、投資件数としては業界特化型AIアプリケーション領域が最多となった

2025年1-6月におけるAI投資サブセグメント

- 最大の成長分野は、半導体とAIコア (OpenAI等) で投資額が急増**
- 投資件数は、**共通基盤(開発、セキュリティ、データ等)**やヘルスケア、製造/物流向け等の業界特化型が多い
- 自律型マシンのロボット/自動運転関連は昨年度から投資額が成長している

AI heatmap by subsegment



Source: PitchBook • Geography: Global • As of June 30, 2025

業界特化型AIアプリ：特定の業界・用途・職種に焦点を当てて設計されたAIアプリケーション
汎用的に広く使える水平型(Horizontal) AIと異なり、対象領域を絞ることで深い専門性や精度を実現

世界におけるAI投資の最新動向（2024年）

- 2024年、世界のAI投資の約半分以上が米国に集中
- 米国の民間AI投資額は約1,091億ドルで、中国（93億ドル）を大きく引き離し、日本はわずか9億ドル規模と、世界主要国の中でも下位に位置

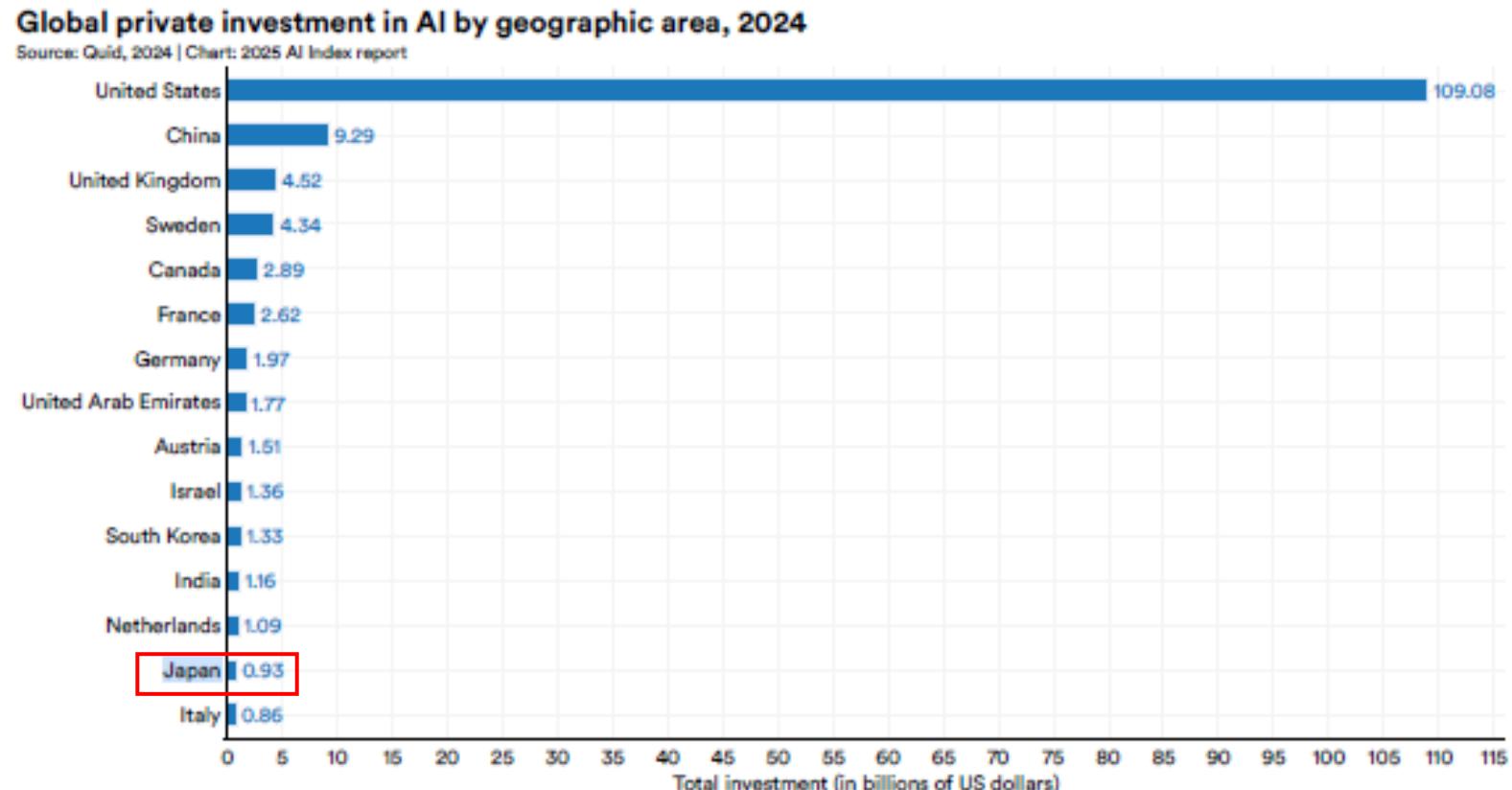
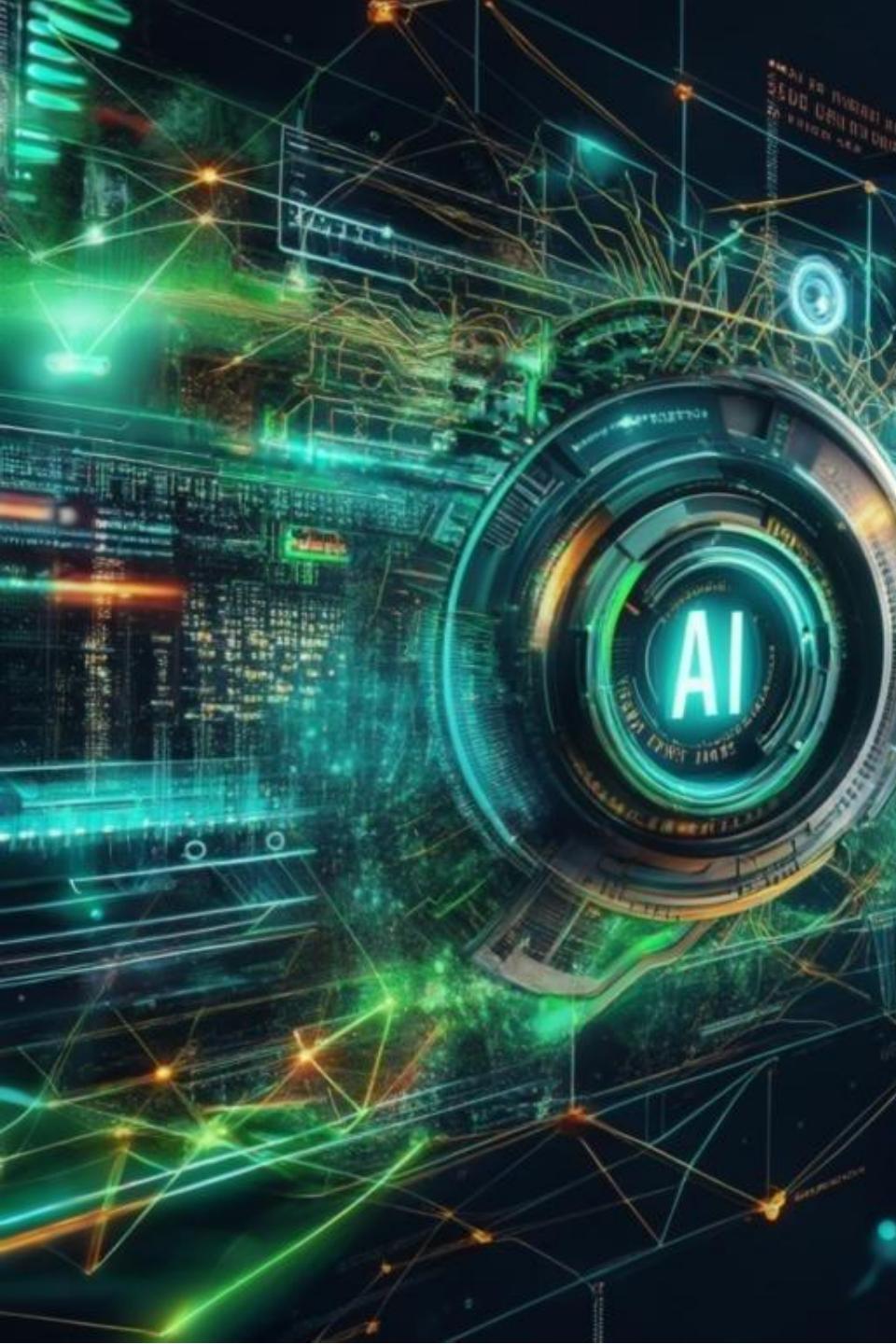


Figure 4.3.8

「HAI_ai_index_report_2025」



-Agenda

- ・米国におけるAI投資動向
- ・AIエージェント活用の現状と進化
- ・音声AIがもたらす新たな変革
- ・動画・画像生成AIの最前線
- ・米国におけるコンシューマAIの利用実態
- ・最新のトレンド情報
- ・AIマーケットマップについて
- ・注目スタートアップ紹介

AI技術の見通し

- 2025年、生成AIは「コンテンツ生成AI」から“実行するAI（AIエージェント）”へ本格移行した。勝敗を分けるのは、コンテキストデータ／長期メモリ／API連携（MCP等）を前提にしたワークフロー標準化と、低遅延・省コスト推論、評価・監査を含む安全運用である
- 今後は業界特化エージェントとフィジカルAIが並走し、人とAIの協調様式が再定義される

年代	時代	サービス項目	KSF（成功要因）
2020-	生成AI	<p>生成AIの急拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> テキスト生成 画像/動画生成 音声生成 	大規模GPU / 高品質データ / 使いやすいUI・API
2023-	生成AI	<p>エンタープライズ実装フェーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> セキュア社内データ活用（RAG、Fine-Tuning） AI評価・観測、AIセキュリティ・ガードレール Synthetic Data、AI推論インフラ最適化 	セキュリティ / 評価・監視 / 予測可能性 推論コスト最適化 / 合成データ活用
2025-	AIエージェント	<p>自律エージェント + 複数ツール自動連携</p> <ul style="list-style-type: none"> Deep Research 自動タスク実行エージェント 対話型エージェント コード生成・開発支援 パーソナルAI・長期メモリ Edge / On-device AI 	API連携（MCP） / 長期メモリ / 低遅延・省コスト / Devエコシステム・コスト最適化 / コンテキストデータ / 評価とトレーサビリティ / 安全性とガードレール設計
2026-	垂直特化と業界標準化	<ul style="list-style-type: none"> 垂直特化AIプラットフォーム 産業 API エコシステム拡充 	業界特化データ / 規制対応 / API標準 / 導入スピード
2027?	フィジカルAI Embodied AI	<p>EmbodiedAIで現実タスク代行</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動運転車 ヒューマノイドロボット 家庭用、業務用他 	省電力HW / エッジ推論 / 安全性 / サプライチェーン対応

今ココ

AIIエージェントとは

- 生成AIとは異なり、AIIエージェントは継続的に学習して自律的に判断・実行できるため、より人間に近い問題解決が可能
- 将来的には、人とAIIエージェントがパートナーとして共に働き、暮らしを支え合う時代が予測されている

AIIエージェントの登場

- “喋れるAI”から“動けるAI”へ
現実世界での実行力が評価される時代へ突入

AIIエージェントとは？

AI技術を用いて環境を**知覚、認識、行動**し、
デジタルまたは物理環境において目標を達成するソフトウェア

構成要素

詳細

知覚

AIIエージェントが外部環境やセンサー等を通して情報を受け取り、感知する能力のこと

認識

知覚情報を元に意味づけや判断、意思決定を行う能力

行動

認識で決めた意思決定に基き、環境に対して働きかける能力

エージェントのレベル定義

米国トップVCのBessemerは、6つのレベルでAIIエージェントを定義しエージェントの進化を予測

Lvl	定義	詳細
1	思考連鎖推論	思考の道筋を示し、自己レビュー可能
2	条件付き共同操縦	コード補完のように、「提案」だけでなく状況に応じた支援を提供
現在	高い自律性	情報だけでなく、実際の操作（メール送信・コード実装など）を実行
4	ジョブ実行	複雑な連続タスクを人なしで実行
5	エージェントチーム	複数エージェントが協力し、連携しながらタスクを遂行
6	チーム管理	他のエージェントを管理・監督し、採用や評価もできる

AIエージェントによる人件費の破壊的変革

- AIエージェントは、人を前提とした業務構造を根本から書き換える存在であり、その進化は、米国11兆ドル規模のホワイトカラー市場を超えて、世界の働き方そのものを変え得ると米国トップの投資化界隈で言われている
- 米国トップVCのa16zは「AIエージェント＝人件費そのものを置き換える規模のディスラプション」と表現

AIエージェントは“企業構造”そのものを再設計

- RPAやSaaSが目指したのは「人を効率化する」世界
- AIエージェントは「人を前提としない」新しい業務設計を実現する

RPA時代

焦点：業務の部分最適（人の作業効率化が中心）
 システム設計：定型業務の部分自動化（入力・転記・補助中心）
 世界観：人の操作を前提とし、人間が中心で業務を進める

SaaS時代

焦点：業務の部分最適（人の作業効率化が中心）
 システム設計：人の操作を前提としたシステム化（例：Salesforce, SAP）
 世界観：「人がボトルネックであること」を前提に、判断・調整は人間が担う

現在

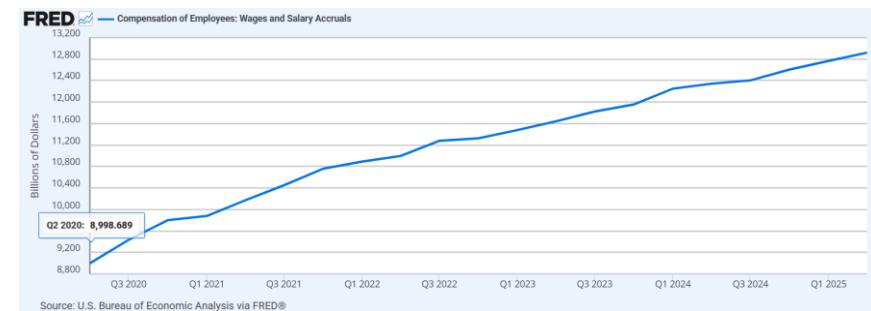
AIエージェント時代

焦点：業務構造そのものの再設計（人中心設計からの脱却）
 システム設計：AIがタスクを直接遂行（予約変更、集金、サプライヤ交渉等）
 世界観：「人が読む／判断する前提」を排除し、AIが調整・意思決定・対話まで自律実行

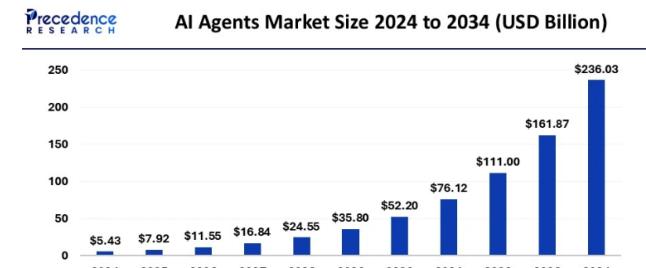
市場規模

- AIエージェントが狙うのは**11兆ドルの非物理的労働市場**
- 効率化の延長ではなく、**巨大な「人件費プール」そのものを置き換える**

■米国ホワイトカラー人件費＝約11兆ドル (FRED WASCUR, 2025)



■AIエージェントマーケット



米国におけるAIエージェント活用の実態

- PwCによる最新のAIエージェント活用調査においては、調査対象の米国企業のうち79%が導入済と回答

米国のAIエージェント活用状況（2025年5月）

- 米国企業の79%がAIエージェントを導入済で、66%が生産性向上などの成果を報告し、88%が今後1年以内の予算増額を予定

AI agent adoption



Q: Which of the following best describes how AI agents are being adopted across your company? (Select one.)
Source: PwC's AI Agent Survey, May 2025, base of 308

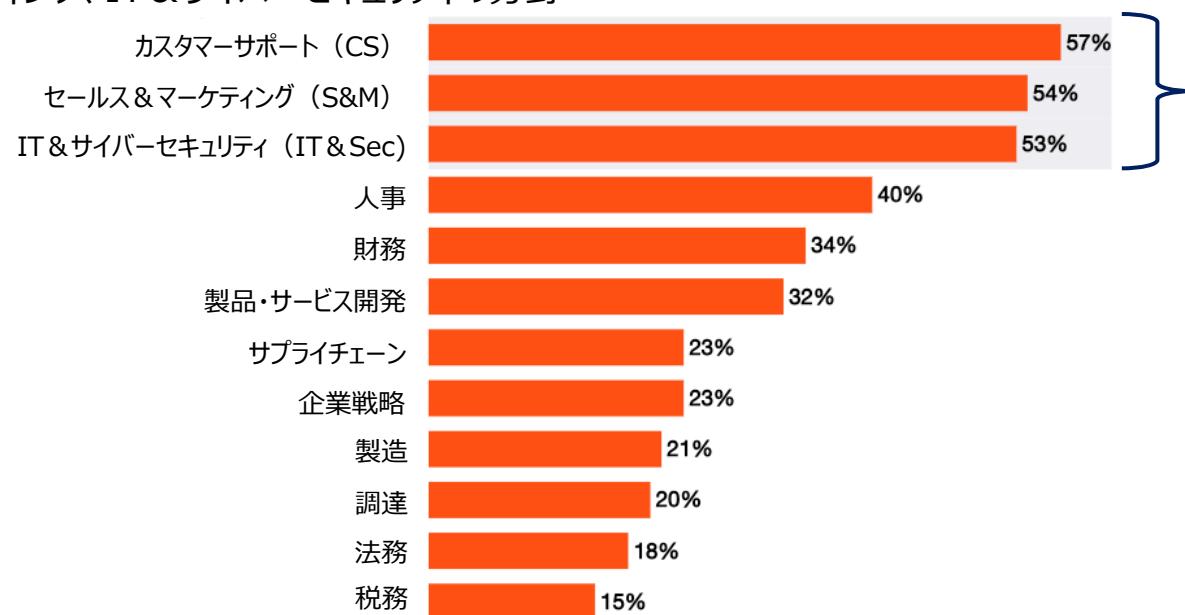
PwC's AI Agent Survey

米国企業におけるAIエージェント導入分野

- AIエージェントは カスタマーサポート、セールス＆マーケティング、IT & サイバーセキュリティ で導入が突出。いずれも「繰り返し型の業務」かつ「データ・API連携基盤が整備済み」で効果検証が早い

AIエージェントの導入が進む分野（2025年5月）

特にAIエージェントの導入が進んでいるのは、カスタマーサポート、セールス＆マーケティング、IT & サイバーセキュリティの分野



NDVによる要因分析

ROIを測りやすい

- 業務が繰り返し型で、効果が数値（KPI）すぐに見える
- 例えば、CSなら応答時間や一次解決率、S&Mなら成約率やリード数、IT & Secなら復旧時間や再発率といった指標で成果を確認できる

データとの連携基盤が整っている

- CRMやITSM、マーケ自動化、SOARなど既存SaaSにログとAPIが揃っており、エージェントが“つなぎ役”として動きやすい

段階的に自立化できる

- いきなり全自動ではなく、監督つきの半自律運用から始めて成果が出やすく、信頼・統制の懸念を抑えながら拡大できる

*Note: Asked only of respondents who are currently using or planning to use AI agents.

Q: In which of the following business functions is your company currently using or planning to use AI agents in the next 6 months? (Select all that apply.)

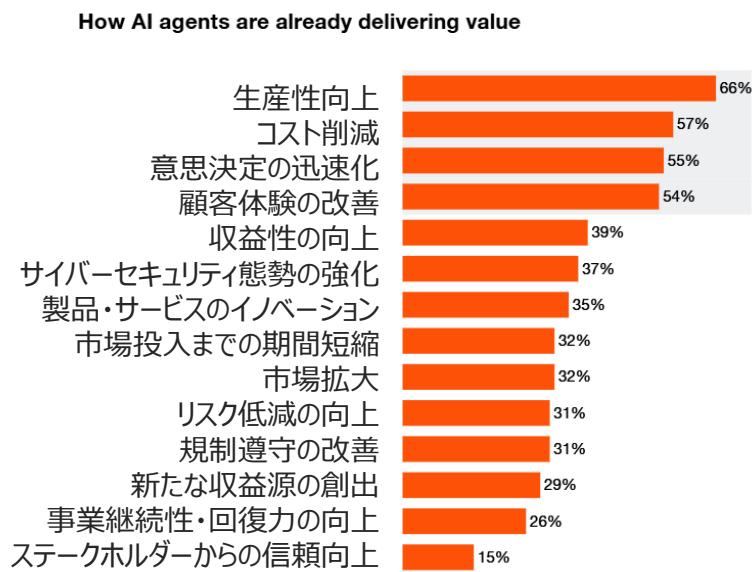
Source: PwC's AI Agent Survey, May 2025, base: 290

AII-エージェントが提供する価値と課題

- AIエージェントは生産性向上やコスト削減、意思決定の迅速化など、多岐にわたる価値をすでに提供している
- 一方で、セキュリティやコスト、信頼性、データ品質、組織的な活用定着などの課題が大きく、真の価値創出には全社的な取り組みが必要

AII-エージェントが提供する価値

- AIエージェントの最大の効果は生産性向上(66%)、コスト削減(57%)、意思決定の迅速化(55%)といった業務効率化にある
- 顧客体験の改善(54%)や収益性向上(39%)、市場投入期間の短縮(32%)など、成長や競争力強化にも寄与



*Note: Asked only to respondents who are currently using AI agents.
Q: How are AI agents delivering measurable value in your company today? (Select all that apply.)
Source: PwC's AI Agent Survey, May 2025, base: 245

AII-エージェントにおける主な課題

- AIエージェントは業務効率化や意思決定の高度化を実現する一方で、その価値を最大限引き出すには多くの課題が存在

課題

権限管理・セキュリティリスク

コストと遅延の肥大化

再現性・監査性の不足 (信頼の欠如)

データ品質とコンテキスト

定着の遅れと役割不明確

レガシー統合・多エージェント連携不全

課題の要点

過剰権限によるツール誤使用やデータ流出の危険

- サイバーセキュリティ懸念 : 34%
- コンプライアンス・法的懸念 : 25%

大規模モデル常用によるUX悪化と運用費増大

- 導入コスト : 34%

AIがなぜその答えや行動を選んだのか説明が出来ない

- AIエージェントへの信頼不足 : 28%
- 人間による監督と説明責任の維持 : 28%

誤った情報源や古いデータを参照し、間違った提案や情報漏えいの危険

- データに関する問題 : 24%
- レガシーデータやシステムとの統合課題 : 24%

従業員定着率が低く、AIとの役割・承認境界が曖昧

- 従業員のスキル適応 : 29%

部分最適導入となり、連携や全社最適化が進んでいない

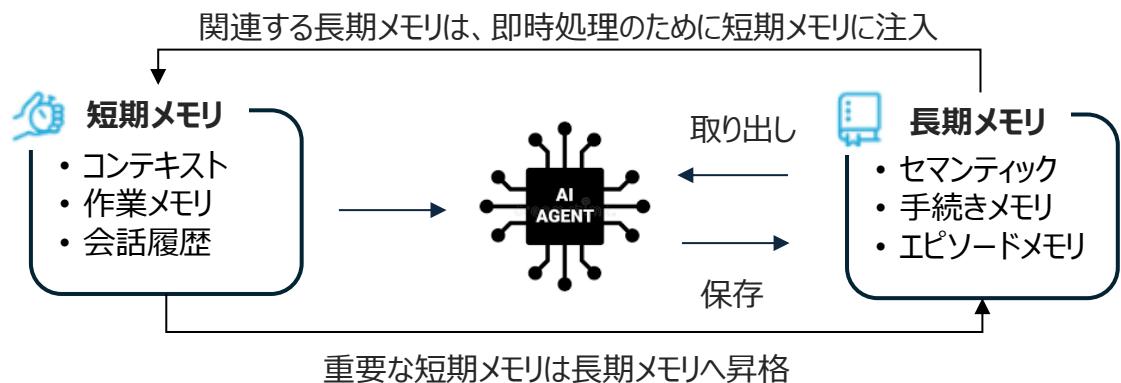
- 異なるアプリやワークフロー間の接続 : 19%

短期・長期メモリによるパーソナライズ化の推進

- 短期メモリは即時コンテキスト、長期メモリは継続蓄積情報を扱い、エージェントのパーソナライズを支える基盤となる
- トップVCは、長期メモリの高度化により、AIが過去のやり取りやコンテキスト（文脈）を参照して高精度にパーソナライズでき、ユーザーの機能的・感情的ロックインを高め得ると指摘

メモリがユーザーの感情的ロックインを喚起

従来のSaaSは固定スキーマと軽いパーソナライズで効率化するのに対し、エージェントは短期コンテキストと長期メモリで精度と即応性を高めるため、**乗り換え時の再学習・再現コストが大きい**



業界トレンドと今後の展望

主要プレイヤーは、短期と長期の二層メモリの実装に動く



2024年2月、OpenAIがChatGPTに長期メモリを導入することを発表、2025年にかけて機能の拡張・ロールアウトを報道



2025年2月、LangChainがLangMem（長期メモリSDK）を正式リリース。エージェントが事実・嗜好を抽出・保持し、継続的に学習する実装が容易に

今後の展望



2026年に向けて、長期メモリの進化によって、AIがユーザー体験をより深くパーソナライズし、**ユーザーのロックインを強める可能性がある**

短期・長期メモリ連携の課題

設計 永続メモリは脆い。動的選択・圧縮・タスク分離などの「スマートなコンテキスト工学」が必須

実装 三層（短期／長期／セマンティック）をどう組み合わせ運用するか、最適解はまだ未成熟



-Agenda

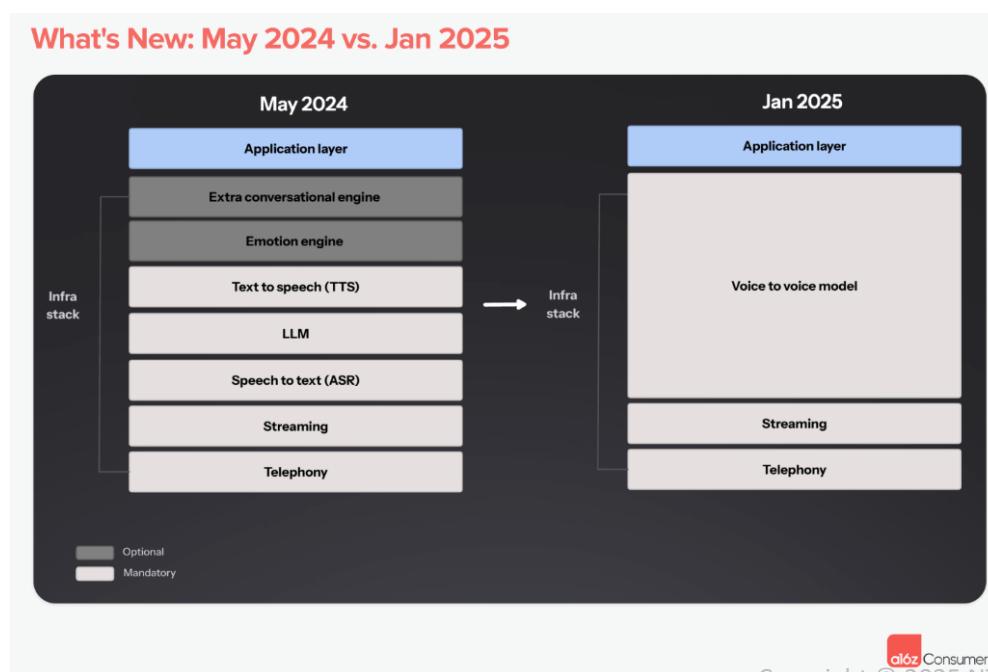
- ・米国におけるAI投資動向
- ・AIエージェント活用の現状と進化
- ・音声AIがもたらす新たな変革
- ・動画・画像生成AIの最前線
- ・米国におけるコンシューマAIの利用実態
- ・最新のトレンド情報
- ・AIマーケットマップについて
- ・注目スタートアップ紹介

音声AIによる対話業務の破壊的変革

- これまで対話業務（コールセンター・予約確認など）は通信事業者や大手BPOの運用が多かったが、生成AIの進展により小規模でも運営可能となり、音声エージェントを提供するスタートアップが急増
- 特に物流・小売・金融といった電話・メール対応が膨大な業界では、内製化と自動化のシフトが加速

技術ブレイクスルーが音声AI市場を加速

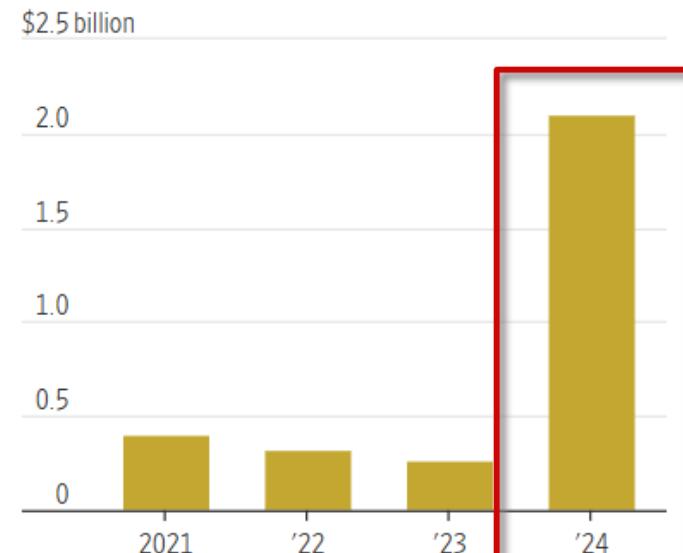
- モデル開発の進歩により、**音声エージェントのレイテンシが低減し、パフォーマンスが大幅に向上**
- また、**モデルコストが大幅減**となったことで市場形成を加速している



音声スタートアップの成長速度

- 音声AIスタートアップへの投資は**23年→24年で約7倍に増加**
- 先行プレイヤーはコンテキストデータを集めやすいことから、更に市場シェアと優位性を固め始めている

Annual VC funding (\$ billions)



音声エージェントのユースケースと企業立ち上げ増加

汎用型

Voice ボイス、音声生成
(STT/TTS)

Business BPO

①Contact-Center AI
(Voice Agent+RAG)

- 金融・保険・医療など電話依存で規制対応コストも高い業界では、大量コールをAI化し待ち時間80%短縮・運営費最大70%削減といった具体的ROIがすでに立証され始めている
- 2020年以降だけでYC発スタートアップが約90社参入し、垂直特化型ボイスエージェント市場が急拡大中

コア垂直市場と早期ユースケース

高コールセンター／BPO支出の産業（金融・保険・行政・ヘルスケア・ITサポート）にて先行採用が進んでいる

業界別：主な課題と代表的なVoice AIユースケース

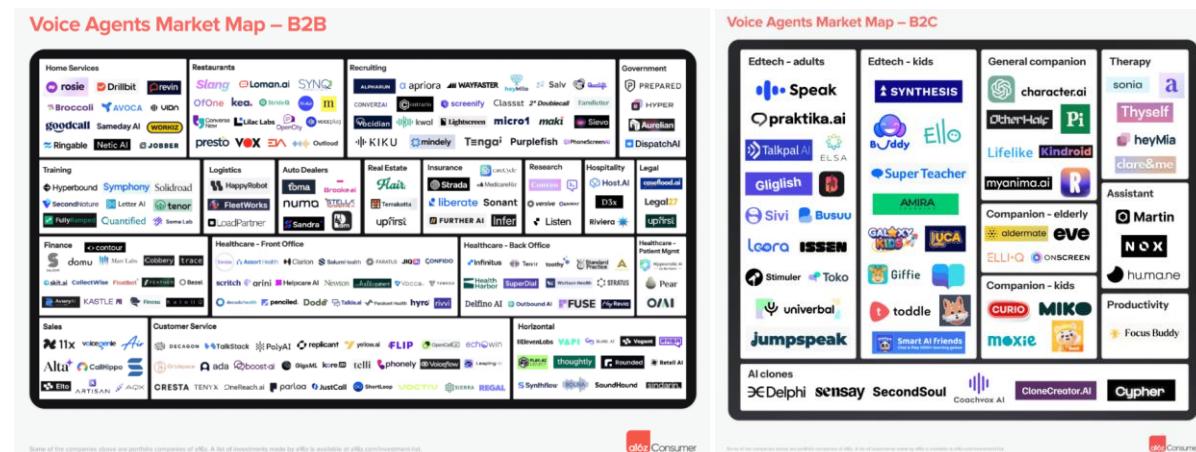
産業	主なPain Point	先行ユースケース
金融	コール量・規制対応コスト高	債務督促、アカウント認証
保険	長い待ち時間、煩雑なバックオフィス	保険金請求・ヒアリング
政府	住民向け問い合わせ集中	DMV窓口、税務相談
医療	受付や再診予約の電話依存	患者トリアージ、薬局リフィル
ITサポート	高スキル人材のコスト	パスワードリセット、一次切り分け

企業が重視する音声AIユースケースランキング

ランク	ユースケース	回答率
1位	会議の要約・文字起こし	53%
2位	カスタマーサービス／タスク自動化	52%
3位	社員トレーニング・育成	44%
4位	コンプライアンスマニタリング	43%
5位	カスタマーエクスペリエンス分析	42%
6位	採用支援	33%

企業設立数から見る成長速度

2020年以降YC発(有名なアクセラレーター)だけで約90社の音声エージェント企業が立ち上げっており、高い注目度がうかがえる



用途構成：B2B 69%/ヘルスケア 18%/コンシューマ 13%

-B2B内訳：Fintech 16.9%、Ops（カスタマーサポート等）12.4%

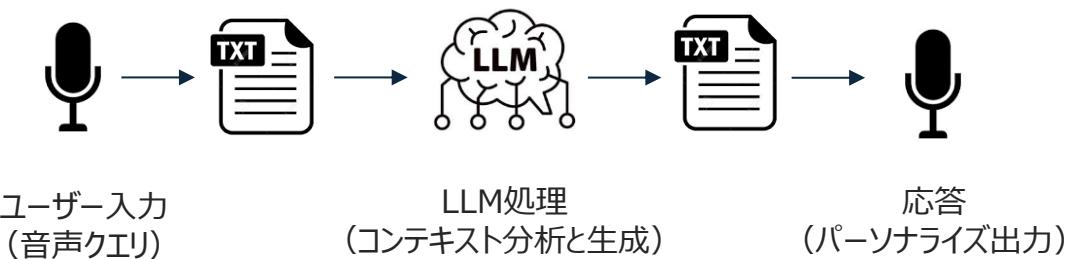
-ヘルスケア内訳：一般医科 11.2%、歯科 3.4%、獣医 2.2%、リハビリ 1.1%

音声UIの進化によるユーザー体験の向上

- LLMベースの音声UIは、AIエージェントが人間の言葉や声を理解して、即時応答するための基盤技術
- トップVCは、この進化によってエージェントの導入障壁が低下し、ユーザー体験が劇的に向上することで、2026年までに90%のエージェントで標準化が見込まれると予想

クリック主体から会話主体のUIへ

従来の音声UIは認識精度や意図解釈の柔軟性に限界があった
LLMベースの音声UIなら、不完全な指示でもリアルタイムに解釈・応答でき、従来のSaaSのクリック中心UIを置き換える得る



業界トレンドと今後の展望

主要LLMプロバイダーは、マルチモーダルと音声UIを武器にエンタープライズ市場をターゲットとし、競争優位を確立しようと動いている



2025年5月、ChatGPTの音声モードがアップデート。音声認識の改善と多言語対応が追加



2025年7月、GeminiのマルチモーダルUIがアップデート。テキスト、音声、画像の統合処理が可能に



2025年6月、Claudeがアップデート。自然言語処理の改善と長期メモリ機能の統合により、応答品質が強化

今後の展望



導入障壁が低下したことで、2026年までにエージェントの90%がこの技術を標準採用すると見込まれる

音声UIの課題

信頼性と安全性

高自律レベルになるほど、タスクの連鎖の確実性を保つことが難しく、誤動作・権限濫用のリスクが増える

プライバシー

会話履歴などの個人情報の扱いが難しく、ユーザー信頼を築くデザインが必要

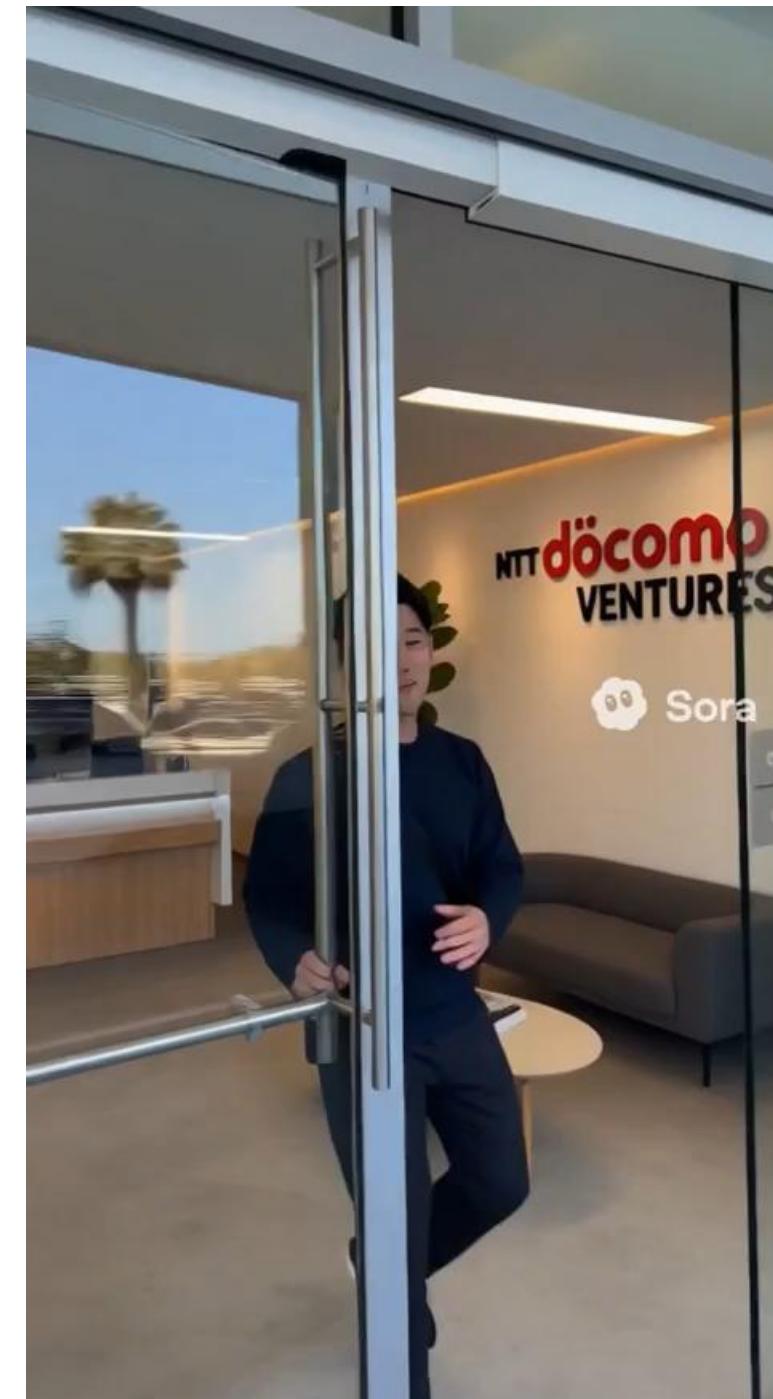


-Agenda

- ・米国におけるAI投資動向
- ・AIエージェント活用の現状と進化
- ・音声AIがもたらす新たな変革
- ・動画・画像生成AIの最前線
- ・米国におけるコンシューマAIの利用実態
- ・最新のトレンド情報
- ・AIマーケットマップについて
- ・注目スタートアップ紹介



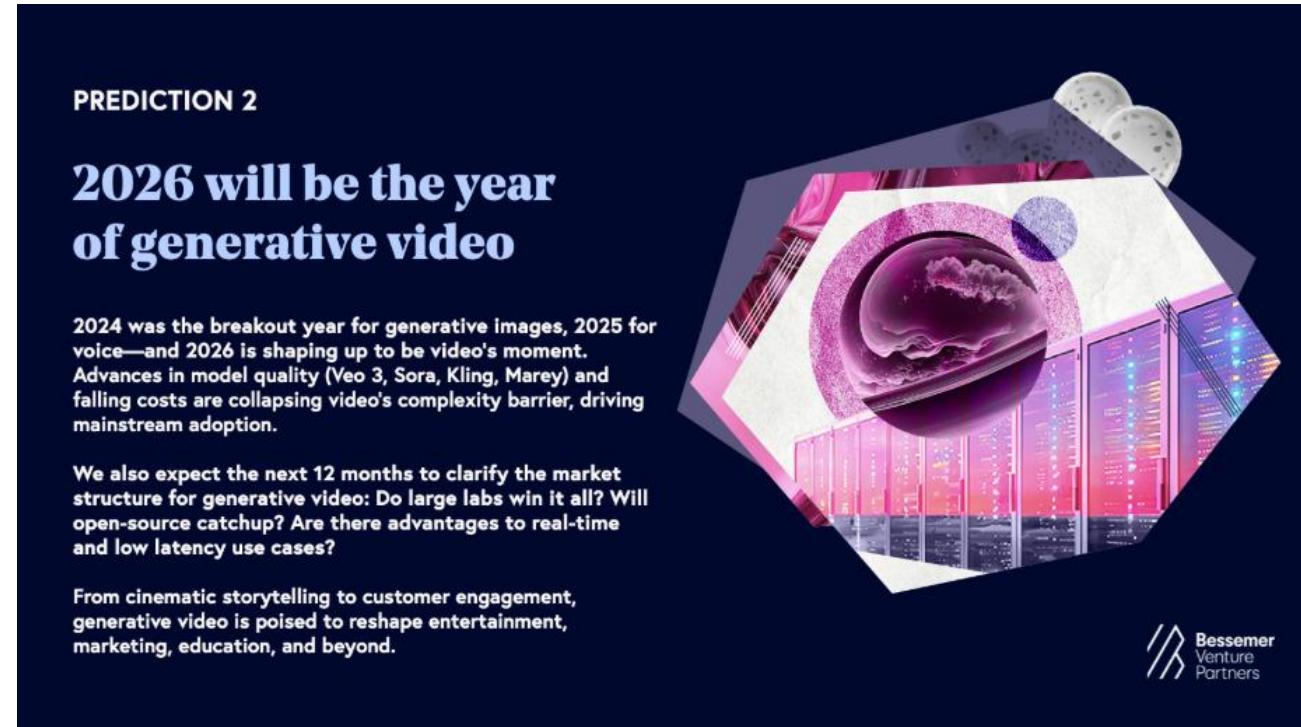
Sora



Sora

動画生成AI市場を取り巻く状況

- 2024年は生成画像のブレイクアウトの年であり、2025年は音声の年、そして2026年は動画の年になると見られている
- 米国トップVCはエンタメから教育まで、動画生成は多分野で体験と制作のあり方を根本的に変える大波になると予測

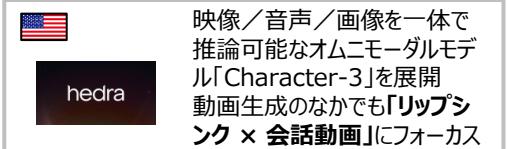
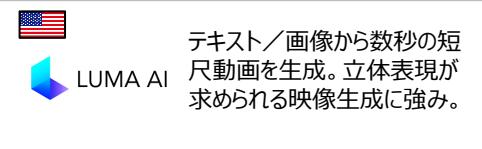
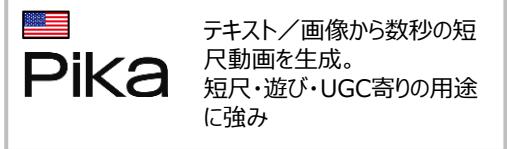


2026年はAI生成動画（Generative Video）が飛躍的に普及する年となると予測されている
(AI動画生成市場は2025年の\$7.17億→2032年には\$25.6億になると予測されている)

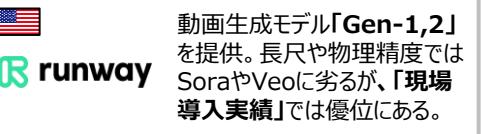
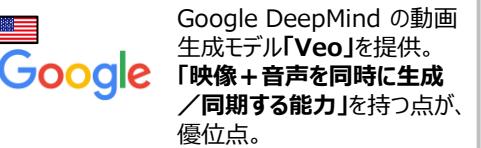
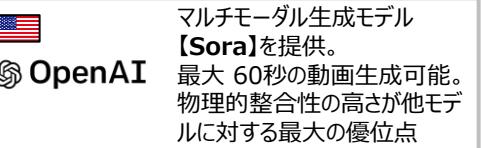
AI生成動画市場におけるプレーヤー分布について

- AI生成動画市場におけるプレーヤーは「自社での基盤モデルの保有有無」によって分かれる。アニメに特化したプレーヤーなども出てきており今後より多くのプレーヤーが参集していくことが見込まれる。

自社モデル保有



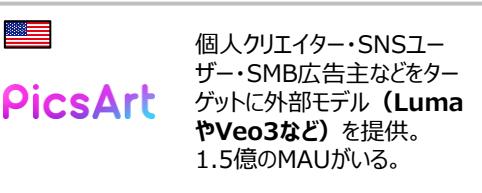
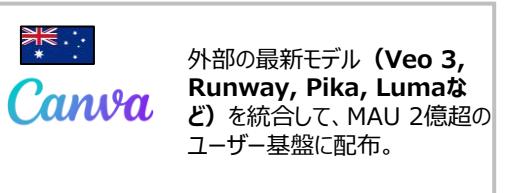
SNS向け



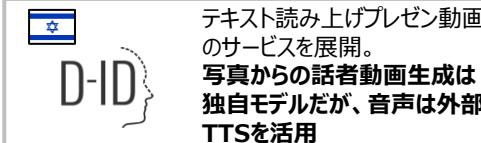
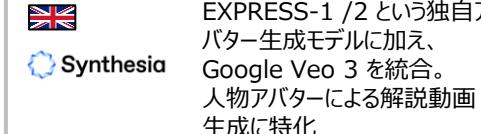
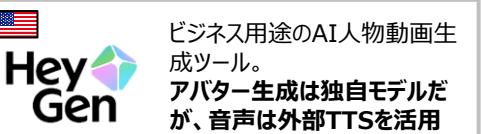
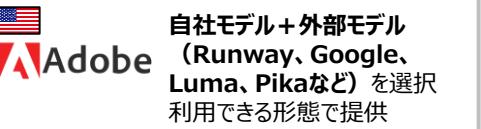
プロ/BtoB向け



他社モデル利用



その他数多くのプレーヤーが存在



AI生成動画の活用分野について

- 出力精度の高度化に伴い、一般利用・商用利用ともにAI生成動画の利用用途が拡大している

活用分野	利用用途	導入による影響	
		As-Is	To-Be
広告・マーケティング	<ul style="list-style-type: none"> 商品紹介、キャンペーン動画の量産、A/Bテスト、言語・人物差し替えによる大量バリエーションの作成などの用途で活用 	<ul style="list-style-type: none"> 撮影 + 編集などに時間がかかり、広告展開までにタイムラグ 制作費も高止まり 	<ul style="list-style-type: none"> 時間/コストを大幅に圧縮 市場の反応を見ながら、「毎日更新される動的広告」の展開も可能に
映像制作	<ul style="list-style-type: none"> 映像制作の中で、群衆シーンの生成や爆破シーンの生成など従来の撮影の中の一部要素の置き換えとして活用が進行 	<ul style="list-style-type: none"> CGの制作などは手作業で実施 制作には時間を要していた 	<ul style="list-style-type: none"> 破壊・群衆シーンなど従来のCGシーンの制作時間を短縮 本撮影前の確認への活用も
教育・トレーニング	<ul style="list-style-type: none"> 研修、マニュアル、アナウンス用のアバター動画の生成、活用が進行 多国籍企業などでのコンテンツの多言語展開に活用 	<ul style="list-style-type: none"> 研修動画や社内アナウンスは撮影やナレーター収録が必要 多言語展開は外注コストが大きい 	<ul style="list-style-type: none"> 制作時間の大幅短縮 社員が「動画ベースで学習・情報取得」するスタイルが普及
SNS/UGC (ユーザー生成)	<ul style="list-style-type: none"> 一般ユーザーがSNS投稿用に活用 写真や既存動画を音付きショート動画へ簡単に変換する際に活用 	<ul style="list-style-type: none"> TikTokやYouTube Shorts用動画は撮影 & 編集スキルが必要で投稿者が限られる 	<ul style="list-style-type: none"> 動画素材の投稿障壁が低下 ミームや二次創作が爆発的に増加 AIキャラ同士の会話動画が増加

AI生成動画を取り巻く直近の課題事項について

- AI生成を取り巻く環境はまだ整備の半ばにある。特に著作権問題やディープフェイクへの対応などは商用での利用にあたっては非常に重要な論点となっている。

著作権・倫理に対する整理について

取り巻く論点

- モデル訓練に著作権作品を無断で使っている疑義
- AI生成物の著作権帰属に関する整理
- アーティストや原著作権者への報酬・対価還元問題

◆直近の動向・ニュース



- 2025年1月に米国著作権局が「AI生成物の可著作性に関する報告」を実施
- AIが生成した作品であっても、人間の創作性／制御度合いが十分であれば著作権保護を認める可能性を示唆

クオリティ保証について（品質・信頼性・整合性）

取り巻く論点

- モーション破綻、キャラクターID崩れ、物理拳動不整合、リップシンクズレ、表情同期不一致など出力された映像の品質にまだ課題が存在している

◆直近の動向・ニュース



- “Video-Bench”という新しい生成動画のベンチマークが公開
- 単なる自動指標ではなく「人間視点での品質整合性」が評価対象になる方向性を示しており、実際の品質保証設計の指針になりうる

ディープフェイクへの規制や表現制御について

取り巻く論点

- 同意なしの顔・声の改変、偽装表現への対応
- 規制法整備、削除義務、透かし表示要求などの基盤整備
- 表現の自由 / 検閲リスクとのバランスの維持

◆直近の動向・ニュース



- 2025年5月、非合意の親密映像（ノンコンセンサル・ディープフェイク含む）を対象に、プラットフォームに対し通知後 48時間以内に削除を義務付ける法案が成立
- 深層偽造の削除義務を制度化する初の連邦法

雇用へのインパクトについて（雇用を奪う懸念）

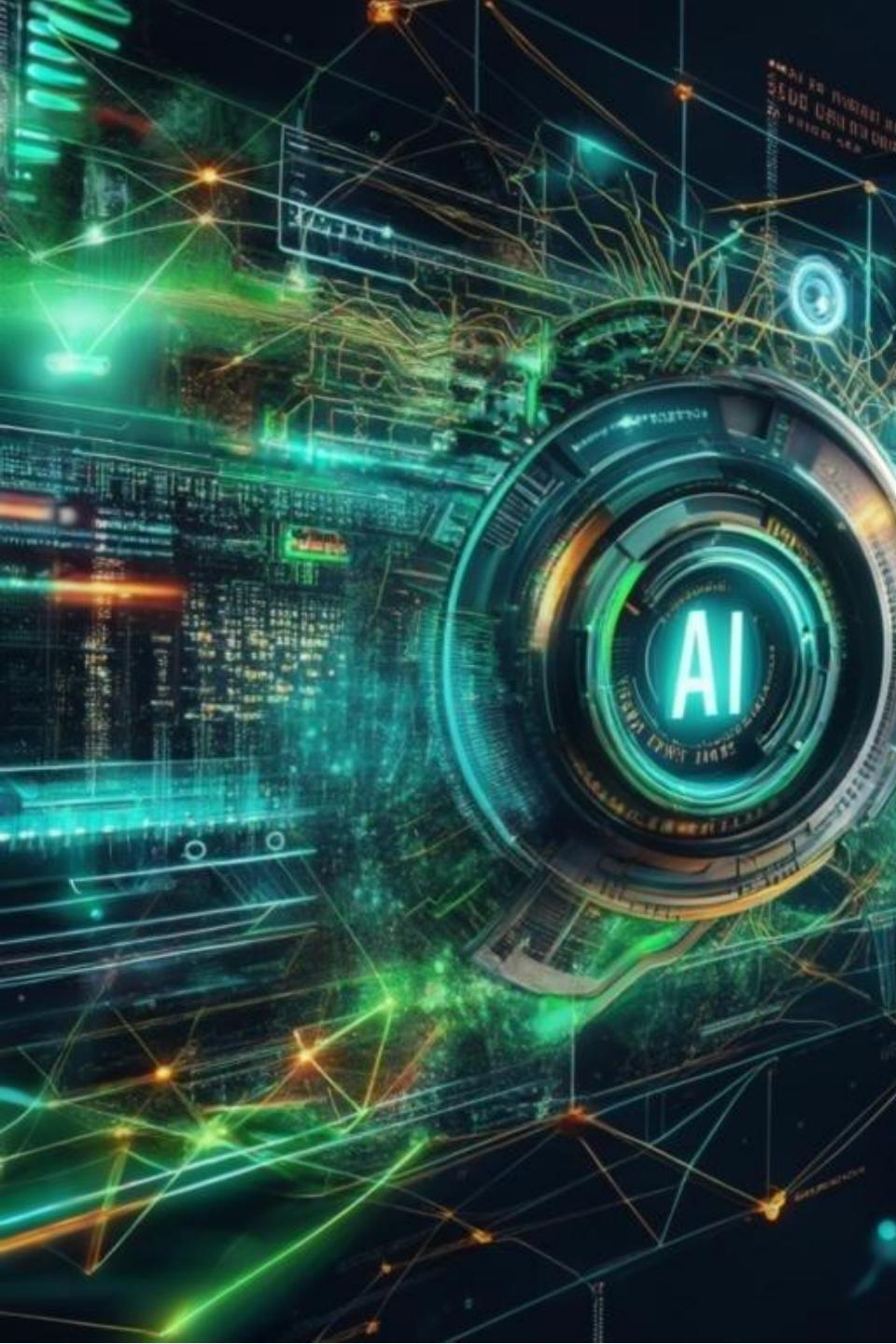
取り巻く論点

- 制作・編集が自動化されることにより、従来のクリエイターは「指示者／統括者」化するとされる
- 新職種創出とスキル転換の必要性が高まっている

◆直近の動向・ニュース



- 2025年6月発信のPwCの「2025 AI Jobs Barometer」では、AIが高度に自動化可能な職務でも「人間の価値が失われない領域」が残るという趣旨を示しており、人とAIが補完する未来を強調



-Agenda

- ・米国におけるAI投資動向
- ・AIエージェント活用の現状と進化
- ・音声AIがもたらす新たな変革
- ・動画・画像生成AIの最前線
- ・米国におけるコンシューマAIの利用実態
- ・最新のトレンド情報
- ・AIマーケットマップについて
- ・注目スタートアップ紹介

米国におけるコンシューマAIの利用世代と実態

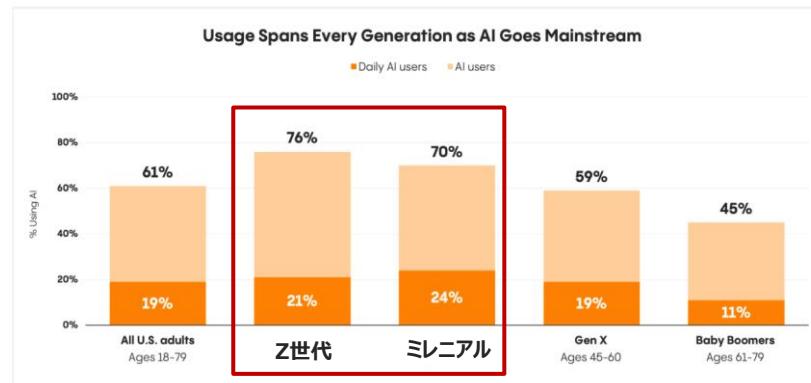
- 米国では成人の61%がAIを利用しておる、特にZ世代（76%）とミレニアル世代（70%）が牽引
- 活用はメール作成やToDo管理など日常タスクが中心であるが、日常的な習慣化にはまだ距離がある状況

米国におけるAI利用世代

米国では直近6か月でのAI利用が61%、デイリー利用が19%
世代横断で普及し、Z世代、ミレニアルが日次利用が多く、親世帯は非親世
帯の約1.9倍のデイリー利用。学生は85%、就業者は75%が利用

Who's Using AI?

Across generations, AI adoption is broad—19% of those aged 18–79 have made it a daily habit



米国におけるAI利用実態

主流の利用形態は、メール、リスト、簡易リサーチなどシンプルで日常的なタスク
AIは汎用的な有用性を示しているが、日常的な習慣化にはまだ距離がある
一方で、創作や学習といった具体的・実用的な価値を提供する場面で導入が
加速し、習慣化・粘着性に繋がりやすい（エッセイ編集、コーディング、課題支
援、プレゼン作成、音声、画像、育児、データコーチ等）

Top 10 Most Common Ways People Use AI in Everyday Life

AI usage for a specific activity among all U.S. adults



差別化の鍵は、汎用AIでは不十分な創作・学習など実用価値の高い領域において、日常習慣として定着しやすい体験を設計すること

生成AIを基盤とするコンシューマー向けアプリ

- 米ベンチャー・キャピタルa16zが、生成AIを基盤とする消費者向けモバイルおよびウェブアプリのランキングを発表
- 画像・動画の編集・生成アプリの人気が高い一方で、AIアシスタント・コンパニオンも全体の29%を占め、AIの消費者日常への浸透が進んでいることが示された

生成AI系モバイルアプリTOP50

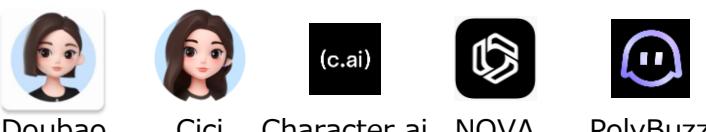
- 画像・動画・音声生成など日常的なコミュニケーションや自己表現を豊かにするためのAIが目立つ

The Top 50 Gen AI Mobile Apps, by Monthly Active Users				
1. ChatGPT	11. FaceApp	21. Phototoom	31. NOVA	41. UpFoto
2. Gemini	12. BG17	22. YouCut	32. BeautyPlus	42. MIVI
3. AI Gallery	13. Faceemoji	23. Grok	33. SNOW	43. Peachy
4. Douba	14. Cici	24. BRAINLY	34. BeautyCam	44. Filmora
5. Microsoft Edge	15. Microsoft Bing	25. PixVerse	35. Photoshop Express	45. Background Eraser
6. Remini	16. Hypic	26. photomath	36. Adobe Express	46. Edits, an Instagram app
7. Baidu AI Search	17. Wink	27. Translate	37. SwiftKey	47. Quark
8. deepseek	18. Copilot	28. PictureThis	38. EPIK	48. QANDA
9. meru	19. character.ai	29. VivaCut	39. PolyBuzz	49. AirBrush
10. perplexity	20. Polish	30. papago	40. Gauth	50. PI@ntNet

出典：<https://a16z.com/100-gen-ai-apps-5/>

AIアシスタント・コンパニオン関連製品が**22%**を占める

主なAIアシスタント・コンパニオンアプリ（モバイル）



Douba Cici Character.ai NOVA PolyBuzz

生成AI系ウェブ製品TOP50

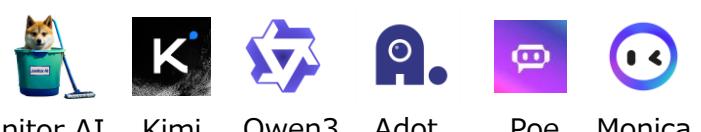
- ユーザーとの対話を行うコンパニオンや、コンテンツ制作・開発などの特化型ツールも多い

The Top 50 Gen AI Web Products, by Unique Monthly Visits				
1. ChatGPT	11. removebg	21. IIIElevenLabs	31. manus	41. replit
2. Gemini	12. Douba	22. Hugging Face	32. CIVITAI	42. candy.ai
3. deepseek	13. NotebookLM	23. Lovable	33. KlingAI	43. JuicyChat
4. Grok	14. SPICYCHAT.AI	24. Crushon AI	34. cutout.pro	44. VEED
5. character.ai	15. SUNO	25. GAMMA	35. Adot	45. Hailuo AI
6. perplexity	16. QuillBot	26. CURSOR	36. DeepAI	46. Meta AI
7. Claude	17. Kimi	27. Pixelcut	37. Poe	47. Remaker
8. JanitorAI	18. PolyBuzz	28. Midjourney	38. ZeroGPT	48. JOI
9. Quark	19. SERRRT.RI	29. TurboScibe	39. Google Labs	49. Monica
10. Google AI Studio	20. Qwen3	30. Phototoom	40. Leonardo.AI	50. ourdream.ai

出典：<https://a16z.com/100-gen-ai-apps-5/>

AIアシスタント・コンパニオン関連製品が**44%**を占める

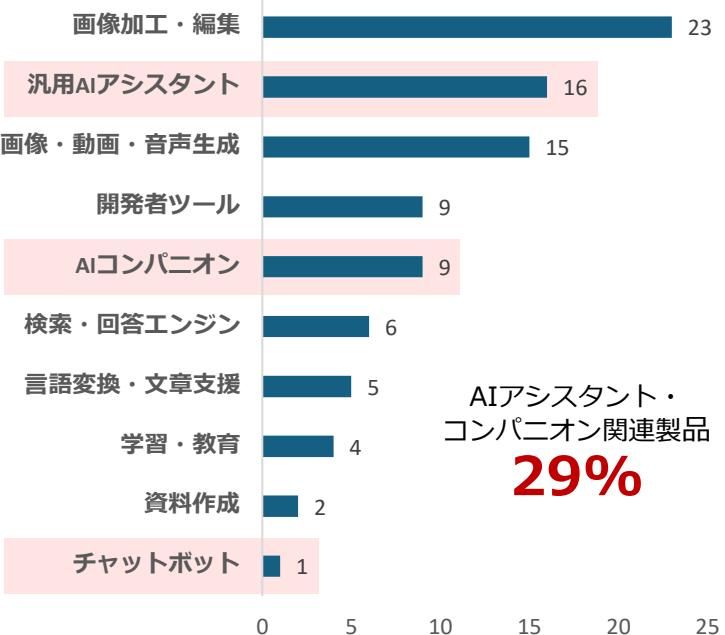
主なAIアシスタント・コンパニオンアプリ（ウェブ）



Janitor AI Kimi Qwen3 Adot Poe Monica

カテゴリ別生成AI系製品の傾向

日常生活の利便性を高める画像加工・編集、汎用AIアシスタント、画像・動画・音声生成、開発者ツールが上位を占めるが、次いでユーザーと感情的に繋がる“AIコンパニオン”が目立つ



AIアシスタント・コンパニオン関連製品
29%

※Mobile AppsとWeb Productsで重複があるものは1としてカウント
出典：a16zの調査を元にNDV作成

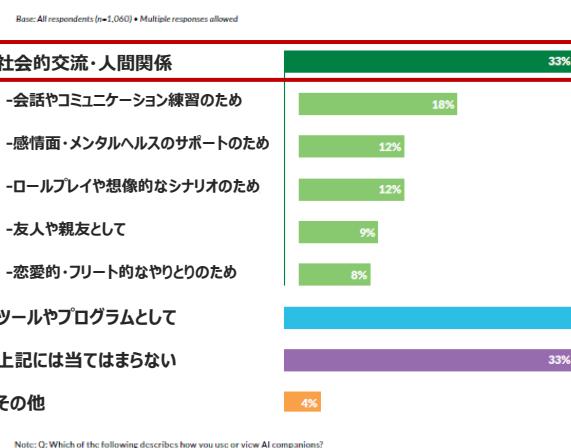
米国若年層におけるAIコンパニオンの利用実態

- 米国ではティーンの7割がAIコンパニオンを利用し、3割は友情や恋愛といった感情的な関わりを求めている
- 一方で半数は「信頼できない」と答え、3人に1人が不快体験を報告する等、利用拡大と同時にリスクや懸念も浮き彫りに

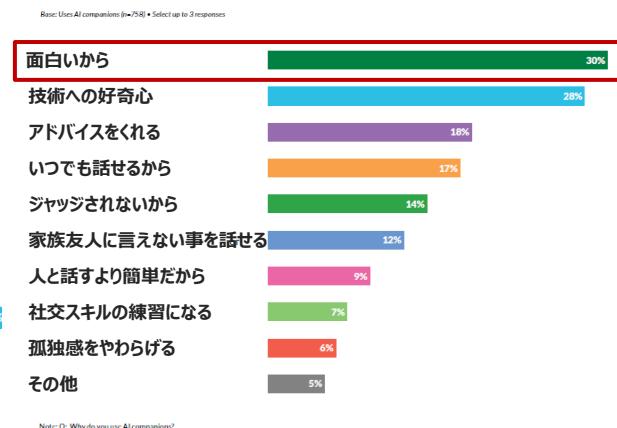
米国若年層は7割が利用し、3割が友情と恋愛を求めている

米国の調査では72%のティーンがAIコンパニオンを利用
そのうち3人に1人は友情や恋愛など感情的な関わりを求めており、主な理由
は「面白いから」「技術への好奇心」といった娛樂性や興味関心が中心となる

AIコンパニオンをどのように利用・認識しているか



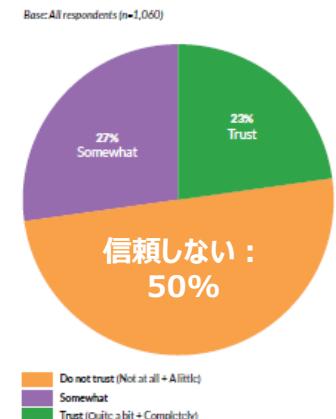
AIコンパニオンを使う理由



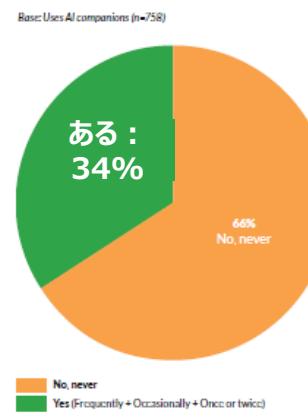
利用拡大の一方、信頼・安全性に関する懸念は残る

利用は拡大している一方で、50%は「助言を信頼できない」と回答
34%が「不快な発言を経験」、33%が「人に言えない重要な相談をAIに」
24%が「個人情報を共有」と答えており、リスクや依存の兆候が確認されている

AIコンパニオンの情報や助言をどの程度信頼しているか



AIコンパニオンの発言や行動に不快さを感じたことがあるか



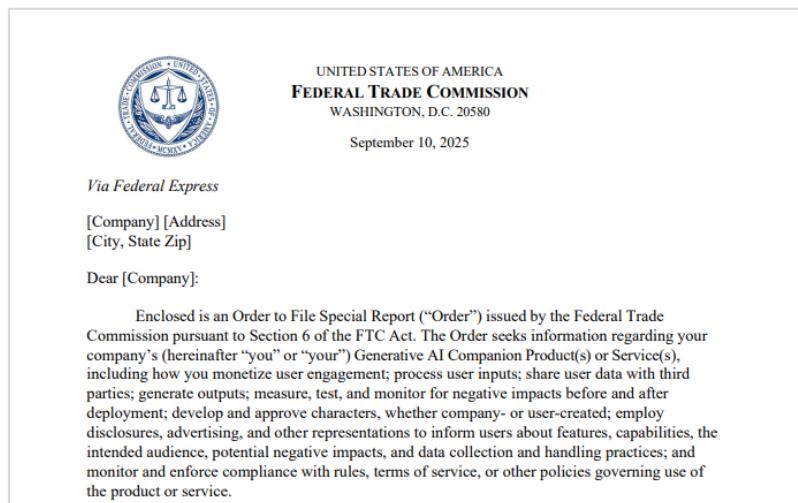
米国調査が示す現状は“面白いが信頼されないAI”、通信とID認証に基づく安心設計で、“信頼される感情エージェント”を実現が差別化要素

FTCによるAIコンパニオン調査の示唆と日本市場への影響

- 米国FTCがAIコンパニオンに対して初の包括調査を開始
- 未成年保護・収益化モデル・データ管理など幅広い領域を対象とし、業界標準や各国規制への波及が見込まれる

米国FTC（連邦取引委員会）がAIコンパニオン調査を開始(9月)

2025年9月、**米国FTCがAIコンパニオンチャットボットを横断的に調査**
 対象：Alphabet, Meta, OpenAI, Snap, xAI, Character.AI
 FTCの権限：企業に対し、強制的に詳細な内部情報の提出を求められる
 (法的拘束力あり)



問題意識

- 脆弱な消費者層の保護（子ども・高齢者）
- 心理的依存や不適切な利用のリスク
- 感情・行動データが商用利用される懸念
- 十分な透明性がないまま普及が進んでいる現状

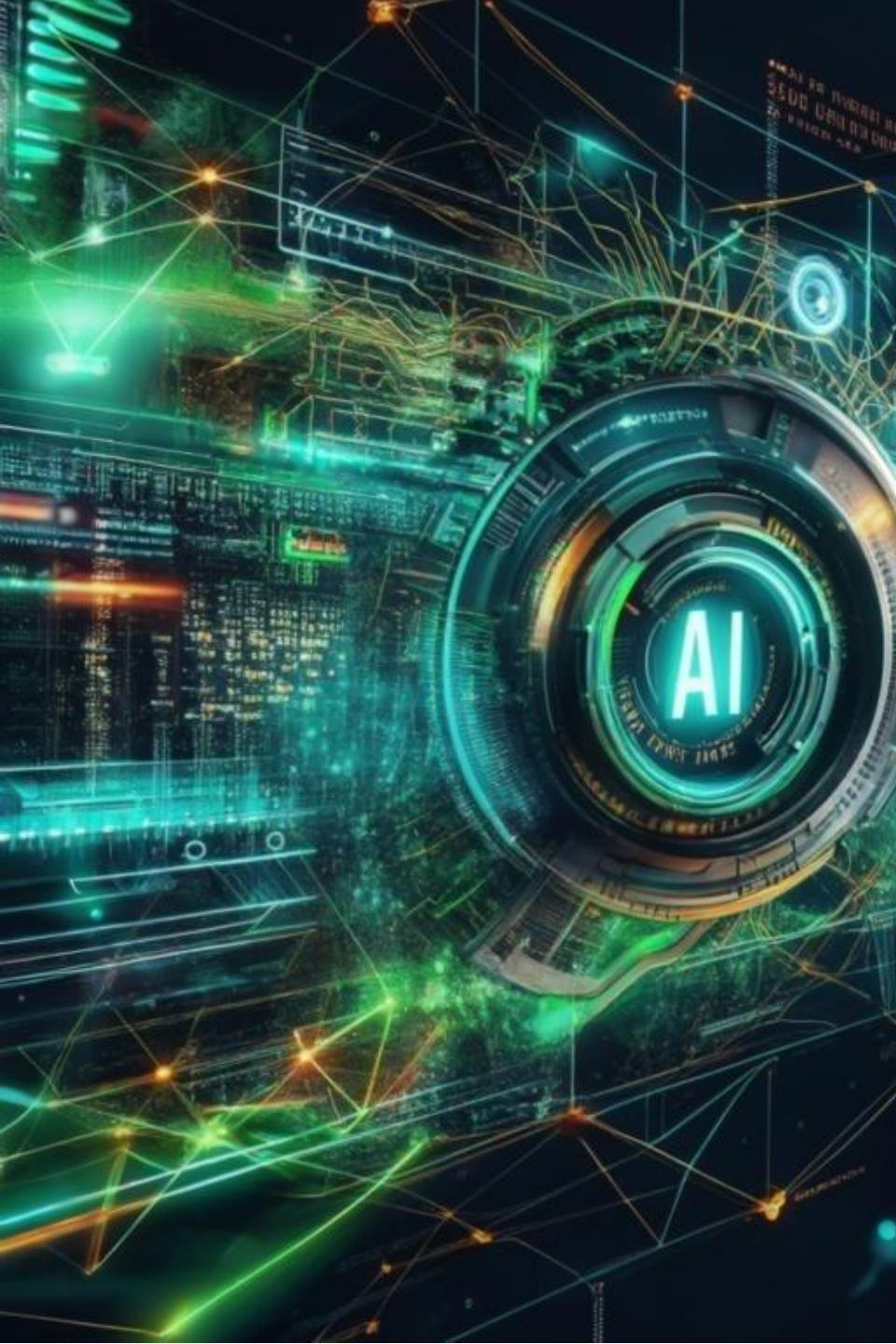
調査の目的・範囲

- 収益化モデル：サブスク、課金、広告、データ利用の実態
- ユーザー保護：特に未成年（暴力・性的コンテンツ・依存リスク）
- データ管理：収集範囲、保持期間、第三者共有
- コンテンツ設計：キャラクター開発、人気キャラTOP100、性的要素の扱い
- 広告・開示：AIであることの明示、利用規約、リスク説明
- 苦情対応：ユーザーや保護者からの苦情件数と対応体制

過去の類似事例（参考）

- Facebook / Cambridge Analytica → 世界的なデータ規制強化
- YouTube / TikTok (COPPA違反) → 広告制限・年齢認証強化
- ダークパターン調査 → サブスク解約ルール改善

FTCによる調査は、米国におけるの基準形成に直結しており、日本でも今後の規制・事業設計の参考指標となる可能性がある



-Agenda

- ・米国におけるAI投資動向
- ・AIエージェント活用の現状と進化
- ・音声AIがもたらす新たな変革
- ・動画・画像生成AIの最前線
- ・米国におけるコンシューマAIの利用実態
- ・最新のトレンド情報
- ・AIマーケットマップについて
- ・注目スタートアップ紹介

- OpenAIはChatGPT内に外部アプリを取り込み回答結果を表示できるApps機能を発表・リリース（2025/10/6）
- 「ChatGPTをAIのApp Store化すること」を実現し、AIエコシステムの中心となるよう各アプリ提供プレーヤーを巻き込んでいる

OpenAI 「Apps in ChatGPT」を提供開始



- 2025年10月6日にDev Dayイベントで、**ChatGPT 内で動作するアプリと、開発者向けの Apps SDKを発表・公開**
- これまでの「チャットを介してやりとりする・情報を得る」からさらに進化し、**ChatGPTのUIの中で、身近なサービスやアプリを利用できる機能を展開**
- アプリを跨がずに情報収集・操作が簡潔

2025年10月リリース時接続可能アプリ

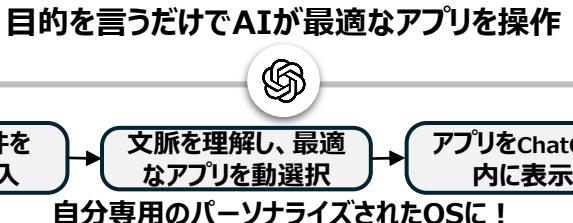


As-Is

ユーザー
体験



To-Be



開発者
体験

- アプリごとにAI機能を実装・運用
- 各社が自前でLLMをAPI連携/チューニングして実装
 - 導入ハードルや運用コストが高い

ChatGPTに接続するだけで自然言語操作対応

-
- “自社アプリ内にAIを組み込む”ではなく“ChatGPT連携”を前提としたアプリ設計が必要に

OpenAIのスーパーアプリ化によって、「AIがユーザー体験の入口そのものを再定義」する時代が訪れる

例) 不動産アプリ Zillow



▲ユーザーの文脈を見て、適切なアプリを提案したり自動で呼び出しを実行。
チャット内に埋め込み型 UI（地図、スライド、プレゼン、動画など）を表示でき、ユーザー体験をよりリッチにする

世界で注目されるAI動向レポート（10/9発出）

- 毎年10月に発行される Air Street Capital による年次分析レポート（2018年から継続）
- 世界のAI研究・産業・政策・安全・投資・利用動向を網羅スタンフォードやDeepMind、OpenAI関係者も参照する業界の基準的資料



出展：<https://www.stateof.ai/>

2026年のAIトレンド：State of AI Report 2025より

1. 大手小売がAIエージェントによる「自動チェックアウト」でオンライン売上の5%超を達成

背景: 「エージェンティック・チェックアウト」とは、AIエージェントがユーザーの購買意思を代行し、商品提案から決済まで自律処理する仕組み

意義: エージェント広告費は50億ドル規模に膨張し、広告→購入→決済までAIが一貫管理する新たなコマースモデルが実用段階へ

2. オープンエンド型エージェントが仮説生成から論文執筆まで自律的に科学的発見

背景: DeepMindのCo-ScientistやStanfordのVirtual Labが、AI同士で実験計画・検証・報告まで行う例が登場

意義: “AIが科学を行う”段階へ進み、創薬や物理・数学の研究サイクルを加速

3. ディープフェイク/AIエージェントによるサイバー攻撃がNATOや国連の緊急会議を招く

背景: AIエージェントを悪用したサイバー侵入・情報操作・偽映像生成が進行

意義: AI安全保障が国家防衛レベルの議題に格上げされ、国際的ガバナンス枠組みの必要性が議論される

4. リアルタイム生成型ビデオゲームがTwitchで年間最多視聴タイトルに

背景: OpenAI Sora 2やTencent Genie 3などの「ワールドモデル」がリアルタイムに映像世界を生成

意義: プレイヤー行動に応じてAIが即時に世界を描く“生成ゲーム”が一般化し、インタラクティブメディアの主流化を示す

5. AIを多用した映画・短編が観客の絶賛と倫理的反発を同時に呼ぶ

背景: 映像生成AI（Sora 2、Vidu 2.0 等）の高精度化で、AIが主要制作ツールに

意義: “AI製作物”が商業的成功を収めつつ、クリエイター権や著作倫理をめぐる議論を激化させる

6. 中国AIラボが主要ベンチマークで米国を初めて超える

背景: DeepSeek R1やQwenなど中国勢の急伸

意義: LMArena等のリーダーボードで中国モデルが米国勢を上回り、AI霸権構図が二極化

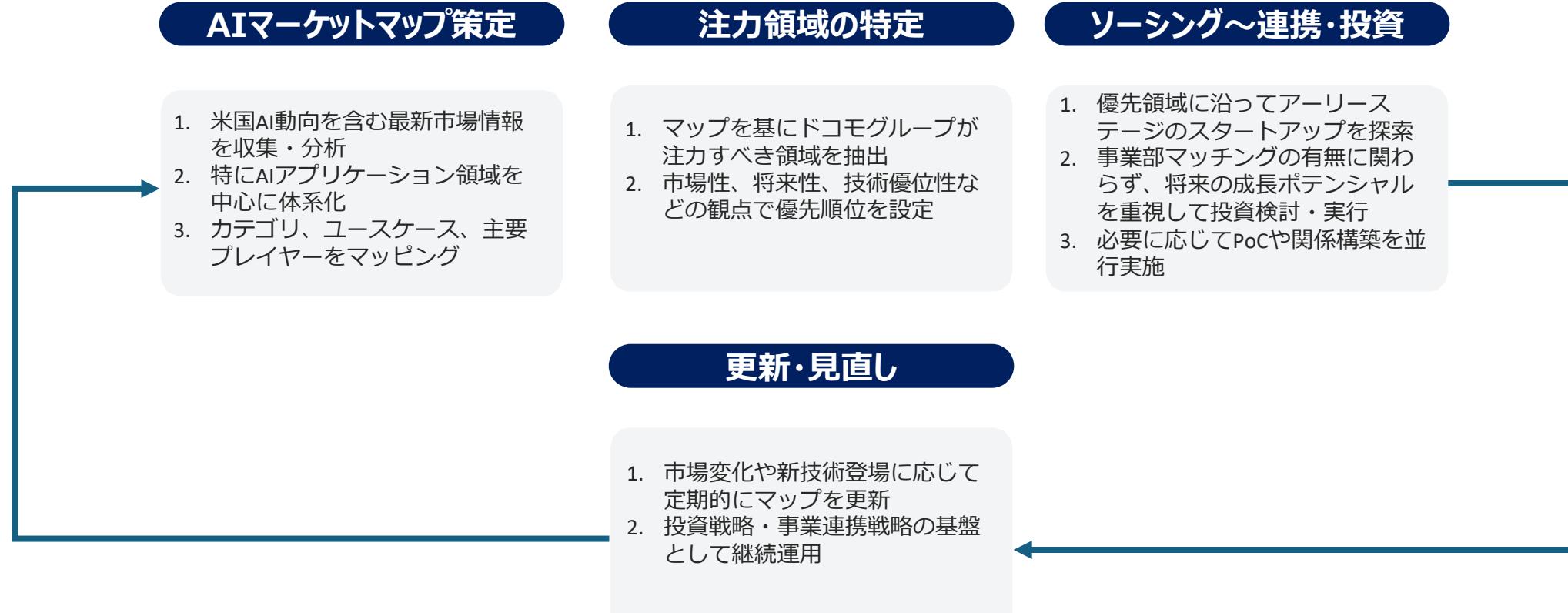


-Agenda

- ・米国におけるAI投資動向
- ・AIエージェント活用の現状と進化
- ・音声AIがもたらす新たな変革
- ・動画・画像生成AIの最前線
- ・米国におけるコンシューマAIの利用実態
- ・最新のトレンド情報
- ・AIマーケットマップについて
- ・注目スタートアップ紹介

AIマーケットMAPの策定

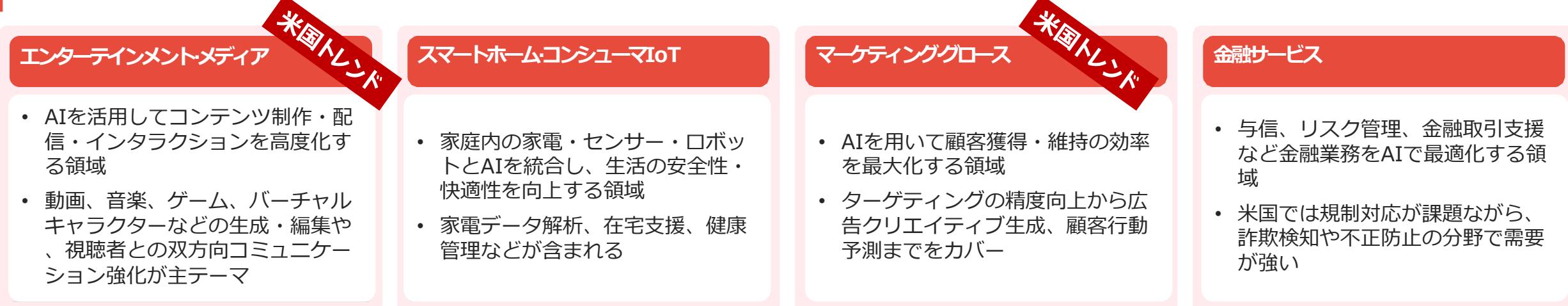
- 米国AI動向等を踏まえ、AIアプリケーション領域を中心とした「AIマーケットマップ」を策定
- 本マップを活用し、ドコモグループが注力すべきAI領域を体系的に把握、スタートアップのソーシングから事業連携・投資検討までを推進
- 進化の速いAI市場に対応するため、定期的な更新・見直しを行い、戦略判断の基盤として運用



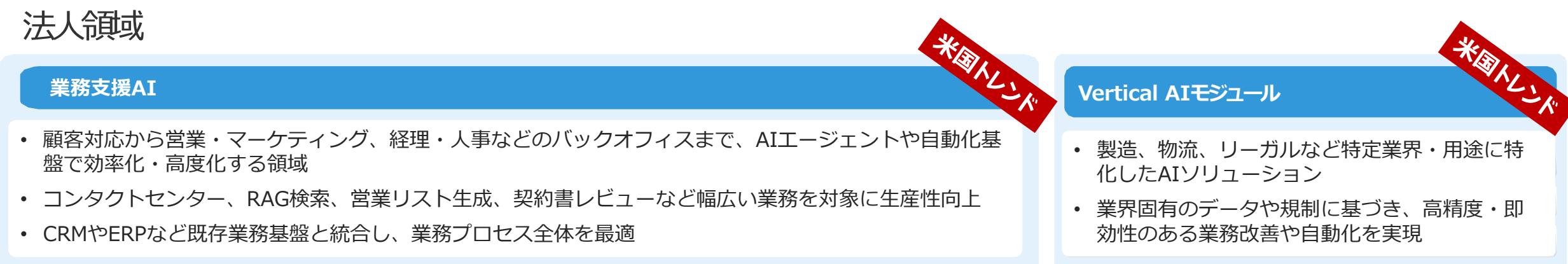
AIマーケットMAPとしての探索領域 1/2

- コンシューマ領域**：生成AIを活用したコンテンツ制作やマーケティング高度化が米国で急成長し、エンタメ・広告領域を中心に注目
- 法人領域**：業務効率化と高ROIを背景に、AIアウトソーシングや特化型AIが大規模導入フェーズへ移行している

コンシューマー領域



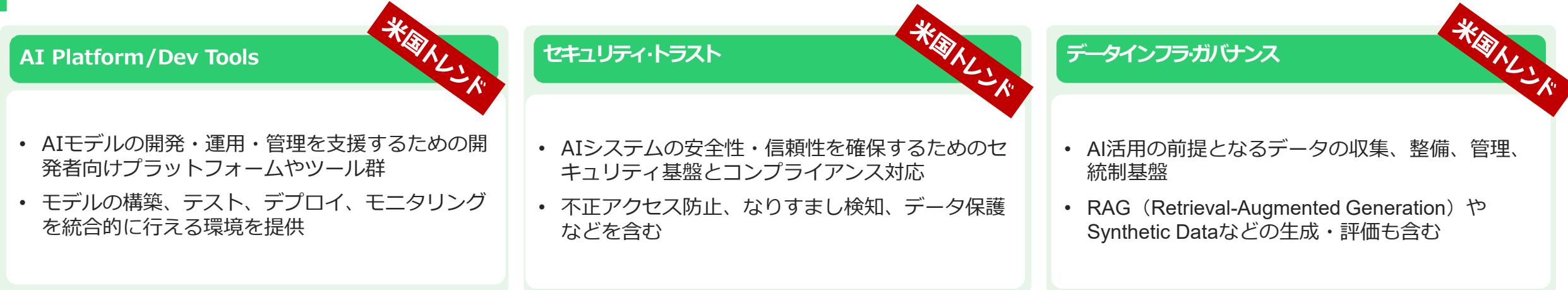
法人領域



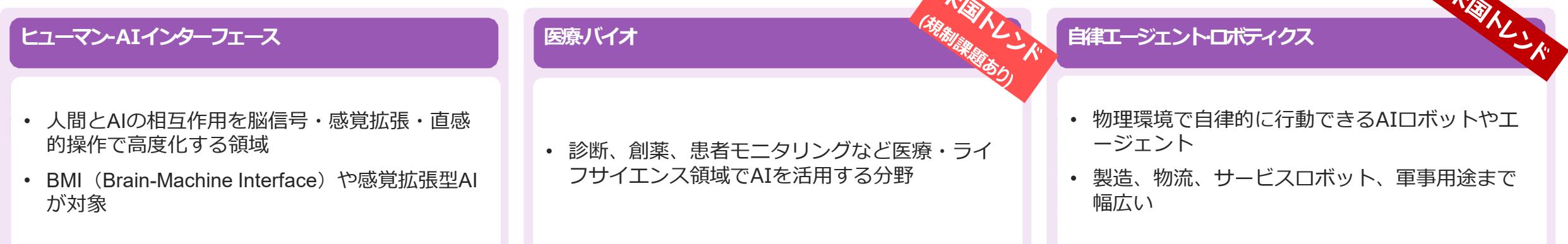
AIマーケットMAPとしての探索領域 2/2

- 共通基盤領域**：開発基盤・セキュリティ・高品質データ管理への投資が急増し、生成AI活用の土台整備が加速
- 将来領域**：自律エージェントやロボティクス分野が高成長を示し、製造・物流・サービスなど複数産業で商用化に向けた動きが活発化

共通基盤領域



将来領域





-Agenda

- ・米国におけるAI投資動向
- ・AIエージェント活用の現状と進化
- ・音声AIがもたらす新たな変革
- ・動画・画像生成AIの最前線
- ・米国におけるコンシューマAIの利用実態
- ・最新のトレンド情報
- ・AIマーケットマップについて
- ・注目スタートアップ紹介

AIマーケットマップにおける注目スタートアップ紹介

- 今回は米国トップVCも着目しているアプリケーション層における注目のスタートアップをピックアップし、ご紹介する

AIマップ	企業名	概要
エンターテインメント・メディア	Eleven Labs	人間らしい声をリアルタイムで生成・編集できる音声AIのリーディングカンパニー
	Twinity	著名人やクリエイターの「AIツイン」を生成・配信・収益化するフルスタック型プラットフォーム
	Luma AI	映像や3Dモデルを高品質で生成できる独自のAIモデルと編集環境を提供
	Pika Labs	自然言語のプロンプトや静止画から、短編アニメーション動画を生成
	Florafauna.AI	AIツールを統合した“インテリジェントなキャンバス”を提供する創作支援プラットフォーム
	Clout kitchen	有名ゲーム配信者のAIクローンによってコーチングや会話を楽しめる体験を提供
	Hedra	画像・音声・テキストから高品質なキャラクター動画を生成できる統合AIコンテンツ制作プラットフォーム
	Ex-Human	感情（エンパシー）に基づいたジェネレーティブAIキャラクターを生成するデジタルヒューマン
スマートホーム・コンシューマIoT	Haz	AIを活用し、所有物（特に中古衣料など）の取引や価値可視化を支援するソーシャルコマースプラットフォーム。友人間での売買履歴をシェアしたり、レシートから自動で商品をデジタル化する仕組み
マーケティング・グロース	Octrace.ai	AIを活用して企業の営業リード獲得を自動化するソフトウェアを提供
	GENWAY	AIがユーザーインタビューを自動で実施・分析するリサーチプラットフォーム
	nexad	チャット生成AIや会話アプリ向けに、文脈に溶け込む広告をAIが自動生成 & 配信する次世代広告
金融サービス	Sardine AI	AIエージェントと行動分析で金融の不正対策とコンプライアンス業務を自動化するリスク管理プラットフォーム
	Payrails	支払い処理の全工程をモジュール式に統合し、企業のグローバル支払いを最適化するプラットフォーム
業務支援AI	Sesame AI	自然対話×感情理解で「人間らしさ」を極める音声AI企業
	Decagon	カスタマーサポート業務を自動化・効率化するAIエージェントを提供
	11X	営業やカスタマーサポートなどの役割をAIエージェント化し、業務を自動化する“AI社員”を提供
	Hebbia	フィナンス・法務・技術文書等に特化した「AIナレッジ・エージェント」
	personal.ai	ユーザーごとに専用記憶を持つ“パーソナルAIエージェント”を提供
	DeepFlow	人間とAIを混成チームとして編成・管理する「Human-Agent Orchestration」プラットフォームを提供
	Mem	「AIノートアプリ」「AI知識管理アシスタント」として、会議録・メモ、ドキュメント等を取り込み、検索・整理・提案まで行うパーソナル/チーム向け情報整理ツールを提供
	Duckie	B2BSaaS向けに、ナレッジベースを活用してAIチャットエージェントやサポートコピilotをノーコードで構築・展開できるカスタマーサポート支援プラットフォームを提供
	Pylon	SlackやTeamsなど、問い合わせを一元的に管理し、自動で対応や引継ぎを行うプラットフォーム

AIマップ	企業名	概要
Vertical AIモジュール	Zoo	AIで設計を加速する次世代型プロフェッショナルCADプラットフォーム
	Backflip AI	AIを活用し、3DスキャンなどからCADモデルを数秒で生成する3D AIツールを提供
AI Platform/Dev Tools	Happy Robot	電話対応と連携自動化で業務効率化を実現するAIワーカー作成プラットフォーム
	fal	リアルタイムかつスケーラブルに生成AIを活用できる、開発者向けマルチモーダル推論・デプロイ基盤を提供
	OpenLayer	AIシステムをリアルタイムで観察・モニタリングし、問題を迅速に検出・修正する「AI評価・可視化プラットフォーム」を提供
	Braintrust	LLMの開発に必要な評価や管理機能を統合したAI開発者向けツール
	LMArena	オープンなAI評価プラットフォームで、ユーザーの匿名投票によって大規模言語モデルのランキングを形成するサービス
	Command Zero	AIを活用してサイバーセキュリティ調査・対応を自動化・高速化するプラットフォームを提供
セキュリティ・トラスト	Doppel	AIを活用して、インターネット上のなりすましや偽情報を自動検出・対処するプラットフォームを提供
	Adaptive	生成AIで内部リスクや不正の兆候を早期検知するセキュリティプラットフォームを提供
	Promptfoo	LLMの品質や安全性を検証できるローカル実行型のオープンソース評価ツール
	Distributional	エンタープライズ向けに、AIアプリケーションの信頼性を評価・維持するための適応的（アダプティブ）AIテスティングプラットフォームを提供
	VALYU	AIアプリケーション向けに高品質な構造化データを提供する検索・配信APIを提供
データインフラ・ガバナンス	Coactive AI	非構造化ビジュアルデータ(画像・動画等)の検索・分析を革新する次世代マルチモーダルAI企業
	HEX	AIを活用し、非エンジニアでも使えるチーム向けの次世代データ分析プラットフォームを提供する
	Kumo AI	複雑なリレーションデータを統合・解析し、予測を自動化する、生成AI基盤モデルプラットフォーム
	Slingshot AI	AIチャットボット「Ash」で心理学ファンデーションモデルを構築し、メンタルヘルスケアのアクセスを拡大
自律エージェント・ロボティクス	PIN AI	ユーザーのデバイス上で稼働するオンデバイス型プライバシー重視の個人AIエージェントを開発・提供
	Limitless	常時会話を記録・解析し、AIで記憶補完と行動改善を支援するウェアラブルデバイスを提供
	Poseidon AI	物理世界に対応するAI向けに、ヒューマノイドロボティクス、音声、センサーデータなどを収集・構造化し、AI学習用の多モーダルデータ基盤を提供
	PrismaX	ロボットの遠隔操作とロボットAIの活動データ収集のためのプラットフォームを構築

AIマーケットMAP 1/2

コンシューマー領域

エンターテインメント・メディア

IIElevenLabs



LUMA AI

Pika



スマートホーム・コンシューマIoT



マーケティンググロース

nexad

GENWAY

Octrace

米国トレンド

金融サービス

Payrails

sardine

法人領域

業務支援AI



Decagon

Pylon

Hebbia

11x

personal.ai



HappyRobot

Duckie

米国トレンド

Vertical AIモジュール

ZOO



Backflip AI

米国トレンド

AIマーケットMAP 2/2

共通基盤

AI Platform/Dev Tools



米国トレンド

セキュリティ・トラスト



米国トレンド

データインフラ・ガバナンス



米国トレンド

将来領域

ヒューマン-AIインターフェース

探索中

医療バイオ



米国トレンド
(規制課題あり)

自律エージェントロボティクス



米国トレンド



Eleven Labs

人間らしい声をリアルタイムで生成・編集できる音声AIのリーディングカンパニー

ドコモベンチャーズ出資

II ElevenLabs

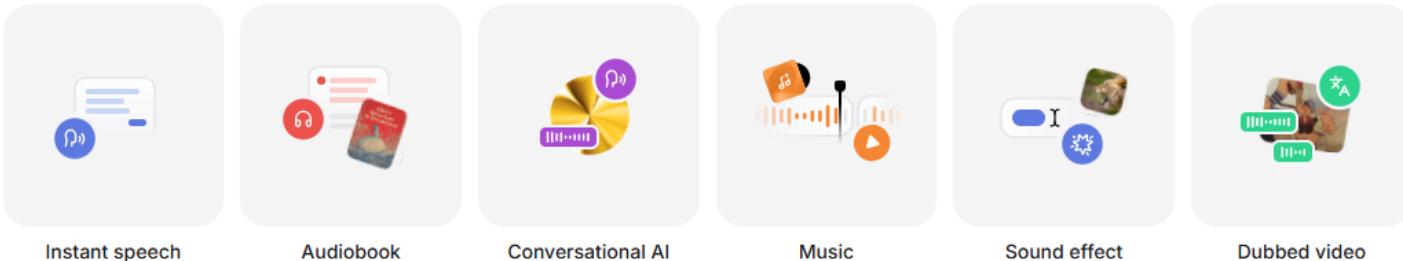


社名	ElevenLabs, Inc.
所在地	New York, NY
設立	2022年
従業員	150人
企業価値	\$6.6B (2025年9月)
直近調達	\$100M (2025年9月)
投資家	Andreessen Horowitz, Sequoia Capital, NEA, Disney Accelerator等

ステージ (✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
			✓		

【サービス概要／プロダクト】

- Forbes AI50に選出されるなど(2025年4月)、AI音声合成において最も注目のスタートアップ
- リアルな声に近いテキスト読み上げ、会話型エージェント、声の特徴を再現するクローニング等の音声機能においてトップクラスの品質



【ユースケース・導入実績】

■ユースケース

- 音声メディア：オーディオブック、ニュース、ポッドキャスト
- コールセンター / 対話AI：会話の自動応答・音声ガイド
- ゲーム / エンタメ：キャラクターのリアルなボイス生成
- 会議書き起こし：STTを用いた議事録プロダクト

■導入実績

- 全世界で数百万人規模のユーザーが利用
- コンテンツ企業、ゲーム開発者、教育機関への商用導入も拡大中
- Spotify / Findaway : AI音声によるオーディオブック配信を実現
- 日本支店展開により日本においても知名度とユースケースが増えている

Happy Robot

AIワーカーを構築・実行するAIエージェントのプラットフォーム基盤を提供

自律エージェントロボティクス

ドコモベンチャーズ出資



社名	Happy Robot
所在地	Dover, DE
設立	2022年
従業員	70人
企業価値	500.0M(2025年9月)
直近調達	\$43.9M(2025年9月)
投資家	Andreessen Horowitz, Ycombinator 等

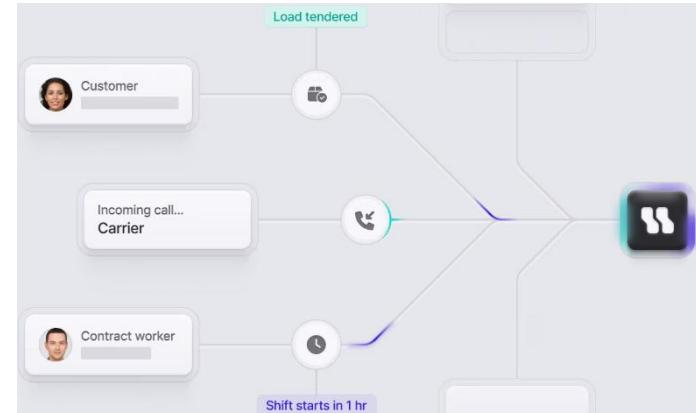
ステージ (✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
	✓				

【サービス概要／プロダクト】

- 多言語対応の物流業界特化型AIワーカーが電話・メール・SMSで顧客対応を自動化
- 通話内容は既存システムと連携可能で、会話履歴を保持・活用し、人間への転送も対応

HappyRobot

AI活用統合プラットフォーム



【ユースケース・導入実績】

■ユースケース

- チェックコール / 出荷状況の確認: 24時間AIワーカーが自動で対応
- 支払い対応: AIによる価格提示・交渉まで可能
- 営業・キャリア獲得電話: 顧客からの通話にリアルタイム対応し、待ち時間「0分」を実現

■導入実績

- flex port, FRAYT, Circle Logistics 等の物流系企業

Hedra

テキスト・画像・音声からリアルに近い画像・動画・音声を生成可能にするプラットフォーム

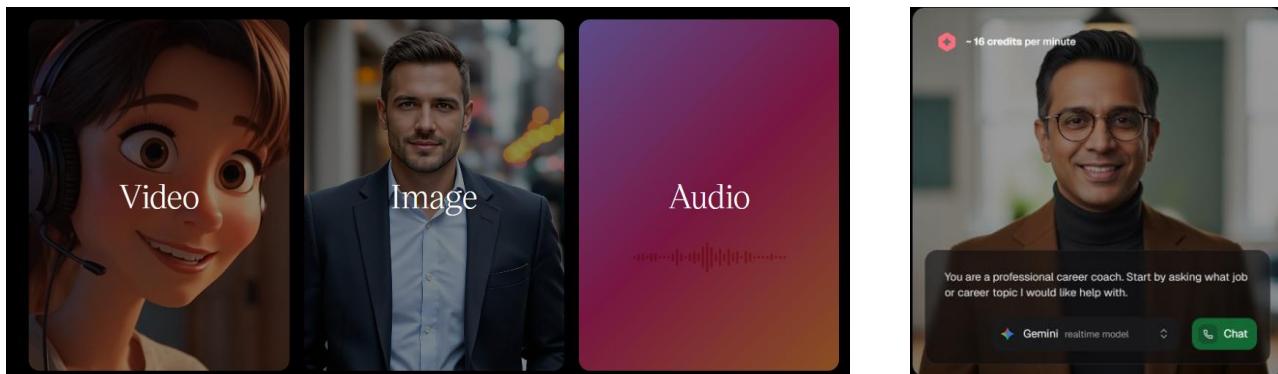


社名	Hedra Inc.
所在地	Sanfransisco, CA
設立	2023年
従業員	27人
企業価値	\$169.0M (2025年4月)
直近調達	\$32.0M (2025年4月)
投資家	Andreessen Horowitz, Index ventures等

ステージ (✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
		✓			

【サービス概要／プロダクト】

- テキストや画像、音声といった複数のデータを同時に扱う「オムニモーダル」によって動画生成のためのAI基盤を開発するスタートアップ
- 写実的な人物からアニメ風のキャラクターまで、歌ったり話したりできる仮想的なキャラクターを生成するプラットフォームを提供



【ユースケース・導入実績】

■ユースケース

- 商品紹介動画や広告: ブランド毎にアバターを作成し、商品提案
- SNSコンテンツ: 告知、FAQ動画、ミーム動画等
- eラーニング教材: マニュアルや文書ベースの教材を動画に変換
- バーチャルインフルエンサー: 生成したキャラクターがSNS等で情報発信

■導入実績

- 250万人以上のユーザーがHedraで動画を生成 (25年5月時点)
- エンタープライズマーケターによって多くの利用

GENWAY

AIエージェントがユーザーインタビューを自動で実施・分析するリサーチプラットフォーム

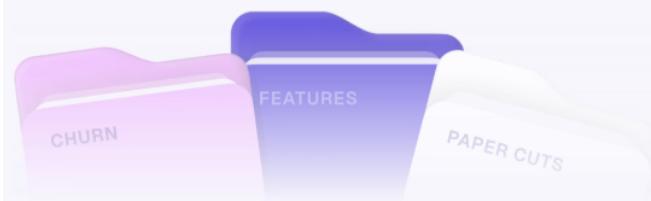


社名	Genway, Ltd.
所在地	Israel (会社登記はアメリカ)
設立	2022年
従業員	非公開
企業価値	非公開
直近調達	非公開
投資家	Andreessen Horowitz、JBV Capital等

ステージ (✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
✓					

【サービス概要／プロダクト】

- 会話型AIエージェントを活用した市場調査プラットフォーム
- AIが自然な対話でユーザーインタビューを実施し、企業が顧客のニーズを把握することを支援



Generate rich insights

"Genway has helped us collect **vital customer feedback** with ease"

【ユースケース・導入実績】

■ユースケース

- プロダクトUXテスト：Figma等のプロトタイプに対する定性調査
- 新機能仮説検証：ユーザーのニーズや反応を高速で収集
- 顧客体験モニタリング：感情や共感を含む定量定性混在型インサイト抽出

■導入実績

- eToro、Playtika、NEXT、Upwork 等エンタープライズで運用中

Automatic summaries
Save time with personalized summaries for relevant stakeholders

AI tagging and themes
Tailor our automatic tagging system to map to your business goals

Workflow integrations
Seamlessly feed interview data into your existing workflows



personal.ai™



社名	Human AI Labs, Inc.
所在地	San Diego, CA
設立	2020年
従業員	20人
企業価値	非公開
直近調達	非公開
投資家	Andreessen Horowitz等

ステージ(✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
	✓				

【サービス概要／プロダクト】

- 過去の会話・メモ・資料を記憶し、ユーザーごとの特性に合わせたAIを生成
- 個人データのナレッジ蓄積により、業務の属人化からの脱退を目指す



【ユースケース・導入実績】

■ユースケース

- SMB向けAI受付・AIチャット対応（カレンダー予約、FAQ対応、顧客メモの引き出し）
- 法人営業やカスタマーサポート領域での記憶付き対話AI
- コミュニティや教育分野での個人支援エージェント

■導入実績

- 通信キャリアとレベニューシェアモデルで提携中
- NVIDIA Inceptionプログラム採択企業
法人・教育・自治体向け導入も進行中

AIアプリケーション向けに高品質な構造化データを提供する検索・配信APIを提供

▽VALYU



社名	Valyu.Network Limited
所在地	England, United Kingdom ※SF移転予定
設立	2022年
従業員	約7名
企業価値	\$ 7.14M(2024年3月)
直近調達	\$0.5M(2024年3月)
投資家	Andreessen Horowitz

ステージ (✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
✓					

【サービス概要／プロダクト】

- 権利者（出版社、ニュース機関など）が、自社コンテンツをAI企業に安全に供与できる場所を提供
- AIが正確で信頼性の高い回答を生成できるよう、「品質が保証されたデータ」を生成AIに共有



マルチモーダル

テキスト、画像、表、コード、その他のデータ形式を検索します。



従量課金制

コスト効率の高い価格で、取得と使用に対してのみ支払います。



独自のコンテンツ

知識労働分野全体にわたって有料コンテンツ、学術研究、レポートを検索します。



ウェブ

単純なリンクにとどまらない、ウェブ全体の全文検索。構造化されたコンテンツを取得します。

【ユースケース・導入実績】

- AIエージェントの強化: Valyu Networkを通じてリアルタイムで信頼性の高い情報にアクセス
- モデルトレーニング: 質の高い検証済みデータで、高性能で偏りの少ないAIモデルをトレーニング

Twinity

著名人やクリエイターの「AIツイン」を生成・配信・収益化するフルスタック型プラットフォーム



TWINITY



社名	Twinity Inc.
所在地	Sanfransisco, CA
設立	2025年
従業員	6人
企業価値	非公開
直近調達	非公開
投資家	Andreessen Horowitz, EWOR等

ステージ (✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
✓					

【サービス概要／プロダクト】

- 無断で著名人の画像・動画が使われているという課題の解決に取り組む
- AIツインの使用量に応じて、著名人やクリエイターに収益を分配

The music label model for AI twins—rights, distribution, monetization.



【ユースケース・導入実績】

- アパレル: 著名人やインスタグラマーのデジタルツインが商品説明をすることでファンからの購入増加の期待
- ECサイト: 過去の購入商品のアップグレードをデジタルツインが提案

チャット生成AIや会話アプリ向けに、文脈に溶け込む広告をAIが自動生成＆配信



社名	nexad, Inc.
所在地	San Francisco, CA
設立	2024年
従業員	3人
企業価値	非公開
直近調達	\$6.0M(25年4月)
投資家	Andreessen Horowitz, Sequoia Capital, Prosus Ventures等

ステージ (✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
✓					

【サービス概要／プロダクト】

- AI・データドリブン型の広告配信最適化が強みのマーケティングプラットフォームサービス
- 従来の検索や広告ではリーチできないAI検索・チャット空間において認知とコンバージョンを生み出す

■ カスタマイズされた広告クリエイティブ

コンテキスト認識広告
インタラクションの状況に合わせて広告クリエイティブをシームレスに調整します

ネイティブでシームレス
これにより、広告は自然で邪魔にならないものになります

エンゲージメント導向のカスタマイズ
カスタマイズによりユーザーの受容性とエンゲージメントが向上

■ エンゲージメントの強化

強化されたUXとエンゲージメント
より良いUX、より良いユーザーエンゲージメント

ダイナミックコンテキスト広告
広告は体験を邪魔することなく強化する

関連性を通じたエンゲージメント
AIネイティブ広告配置によりエンゲージメント率がX%向上

■ 文脈理解

リアルタイムの洞察
リアルタイムのユーザーコンテンツインタラクションを活用します

ダイナミックコンテキスト広告
広告は、進行中のAIの会話やコンテンツのコンテキストに合わせて動的に調整されます。

関連性を通じたエンゲージメント
コンテキストの関連性がエンゲージメントとユーザー満足度の向上につながる

【ユースケース・導入実績】

■ ユースケース

- 予約サイト: 旅行先を調べる会話に、Expediaなどの予約サービスを自然に挿入
- Q&A: カスタマーからの質問に関連した商品の広告を会話内で提示

■ 実績

- iAsk、Dippy AI、Bounce など約7社のAIチャット・検索プラットフォームに導入
- 広告主側では、Intellibright が初の公式パートナーとして参画し、B2B業界を中心にAIネイティブ広告の導入と運用支援を提供

AIを活用して企業の営業リード獲得を自動化するソフトウェアを提供



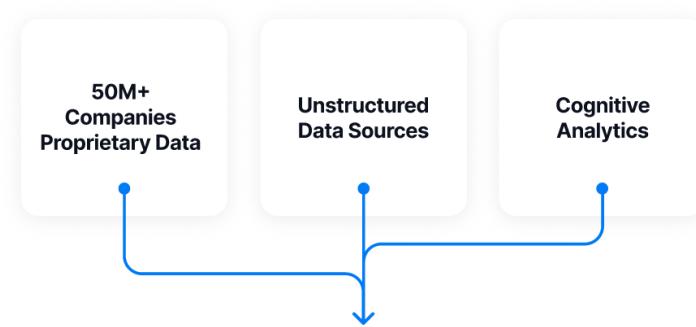
社名	Octrace.ai Inc.
所在地	Wien Vienna, Austria
設立	2022年
従業員	-
企業価値	非公開
直近調達	非公開
投資家	Andreessen Horowitz、EWOR等

ステージ (✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
	✓				

【サービス概要／プロダクト】

- 企業の公開データCRMを自動でスキャンし、有望な見込み客を「必要なタイミングで」提示
- 企業のキーパーソンの検索、リスト化、連絡先取得可能な一気通貫の営業支援ツール

The screenshot shows a search interface with various filters like Company, Industry, Location, and Keyword. A search for 'logistics' yields 2,573 results. One result, 'Trapp Spedition GmbH', is highlighted. The interface includes tabs for Overview, Employees, Locations, and Open jobs. Below the results, there's a 'More Insights' section with a pie chart showing ownership details: 25.00% Wolfgang Mill, 61.00% Ursula Milt, and 14.00% Andreas Loscher.



【ユースケース・導入実績】

- 事業拡大:海外進出など、企業の成長シグナルを逃さず拾い上げ、営業リストに追加
- 経営方針の変化：キーパーソンの交代、新部門設立、組織再編など組織の変化を検知し、これまで営業できていなかった企業にリーチ
- 製造企業:海外販路開拓や新店舗出店時の市場調査
- 物流企業:小売業等で物流ニーズが生じた企業をいち早く検知し、営業チャンスの発掘

Doppel

AIを活用して、インターネット上のなりすましや偽情報を自動検出・対処するプラットフォームを提供



社名	Doppel, Inc.
所在地	Covina, CA
設立	2022年
従業員	181人
企業価値	\$205.0M(2025年5月)
直近調達	\$35.0M(2025年5月)
投資家	Andreessen Horowitz, 515 Ventures, Sozo Ventures, Bessemer Venture Partners, 9Yards Capital等

ステージ (✓)	Seed	Early	Middle	Later	Pre-IPO
		✓			

【サービス概要／プロダクト】

- AIと専門アナリストの連携で、巧妙ななりすましやフィッシングを早期発見
- SNS・ドメイン・ダークウェブなどを横断的に監視し、攻撃インフラを特定
- 偽アカウントや悪性ドメインを数分以内に遮断し、被害の拡大を防衛



【ユースケース・導入実績】

- ブランド担当が偽ドメインや偽アカウントを検出・削除し、企業ブランドの信頼を維持
- セキュリティチームがディープフェイクやなりすましを監視し、標的型攻撃を対策
- 社内ITやCS部門が従業員からの報告を分析し、攻撃インフラを迅速に遮断
- カスタマーサポートが顧客の通報を活用し、AIで検証・対応して被害の拡大を阻止

本「NTTドコモ・ベンチャーズ シリコンバレー Monthly Report（以下、マンスリーレポート）」は、NTTドコモ・ベンチャーズと事業会社間の相互理解、事業部が持つ課題やニーズのヒアリング等を効率的に行うための社内コミュニケーションツールとしての利用を想定し、NTTドコモ・ベンチャーズ シリコンバレー支店で勤務する出向社員が、米国で得た“発見”や“気づき”を元にテーマを決め、投資の動向や関連するスタートアップ等を調査し、まとめたものです。

NTTグループ内の活用を目的に作成されたものであり、第三者への提供を含むその他の目的で引用、参照または開示されるべきものではありません。また、マンスリーレポートの内容について情報の正確性、完全性、有用性について保証するものではありません。

